

ORIGAMI TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

定価 500円

[イベント情報] 東北地方初の大規模折り紙展

青森県浪岡町「紙の不思議—おりがみ展—」

"The Wonder of Paper" : Origami Exhibition in Aomori



[特集] Creating Origami Models

折り紙作品の出来るまで **小松 英夫**

Komatsu Hideo

～「馬」を題材にして～ -in the case of "Horse"-

[今回の折り図]

麒麟

Kylin (Eastern Unicorn)

Model designed by Kamiya Satoshi

神谷 哲史

[好評連載陣] Crease Pattern Challenge : Knight on a Pegasus Model designed by Miyajima Noboru

宮島 登さんの展開図折りに挑戦! 「ペガサスの騎士」

Tomoko in the Box

Fuse Tomoko

Tomoko's Shikishi-hyakka

Tanaka Tomoko

TOMOKOのびっくり箱 布施 知子 ともこさんの色紙百花 田中 具子

Dr. Lang's Useful Geometry

Robert J. Lang

58

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、先取権の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history/bibliography, studies on the preferential right, studies of industrial and commercial design and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes spreading appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and training the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOL FOR FOLDING



折紙探偵団

ORIGAMI TAUTEIDAN MAGAZINE

No. 58

CONTENTS

■ 好評連載陣

TOMOKOのびっくり箱 4
Tomoko in the Box
コーン畳み—その応用BOX
Folded Cones and Boxes
布施知子 Fuse Tomoko

ともこさんの色紙百花 8
Tomoko's Shikishi-hyakka
寒牡丹 Winter Peony
田中具子 Tanaka Tomoko

ラング博士の役に立つ幾何学 14
Dr. Lang's Useful Geometry
「比を折る」第四回 連分数
"Folding Proportions" Continued Fractions
ロバート J. ラング Robert J. Lang

日本の折り紙史を読む 16
A Brief History of Paperfolding in Japan
第四回 鎌倉・室町時代の折り紙
Origami in the Kamakura and Muromachi Era
岡村昌夫 Okamura Masao

折紙散歩 — 折り紙愛好家の初詣 — 18
Origami Sampo (Origami Walk)
— Paper Folder's Hatsumode —
前川 淳 Maekawa Jun

■ カラーページ

ORIGAMI PHOTO GALLERY 20
「寒牡丹」田中具子 / 「コーン畳みとその応用BOX」
布施知子 / 「麒麟」神谷哲史 / 「Mask」
エリック・ジョワゼル
Winter Peony: Tanaka Tomoko / Folded
Cones and Boxes: Fuse Tomoko / Kylin:
Kamiya Satoshi / Mask: Eric Joisel

■ 特集

折り紙作品の出来るまで 11
～「馬」を題材として～
Creating Origami Models -in the case of "Horse"-

小松英夫
Komatsu Hideo

■ 今回の折り図

麒麟 Kylin (Eastern Unicorn) 22
作・図: 神谷哲史
Model & Diagrams
by Kamiya Satoshi



Spenjurmunni 31
カネクイネズミ
作・図: ロバート J. ラング
Model & Diagrams Robert J. Lang

宮島 登さんの展開図折りに挑戦! 33
Crease Pattern Challenge
ペガサスの騎士
Knight on a Pegasus
宮島 登 Miyajima Noboru

■ インフォメーション

北條高史の突撃折り紙レポート 34
Hojyo Takashi's Origami Spread
・シアトルコンベンション
・吉澤 章 展

つまみおり 36
Information
・「紙の不思議-おりがみ展」
・忘年会、例会案内

●第4回●
コーン畳み
その応用BOX

Folded Cones
and Boxes

コーン畳み編

—角錐を中に穴のあいた状態で平らにたたむ—
Folded Cones

作・図 布施知子 Fuse Tomoko

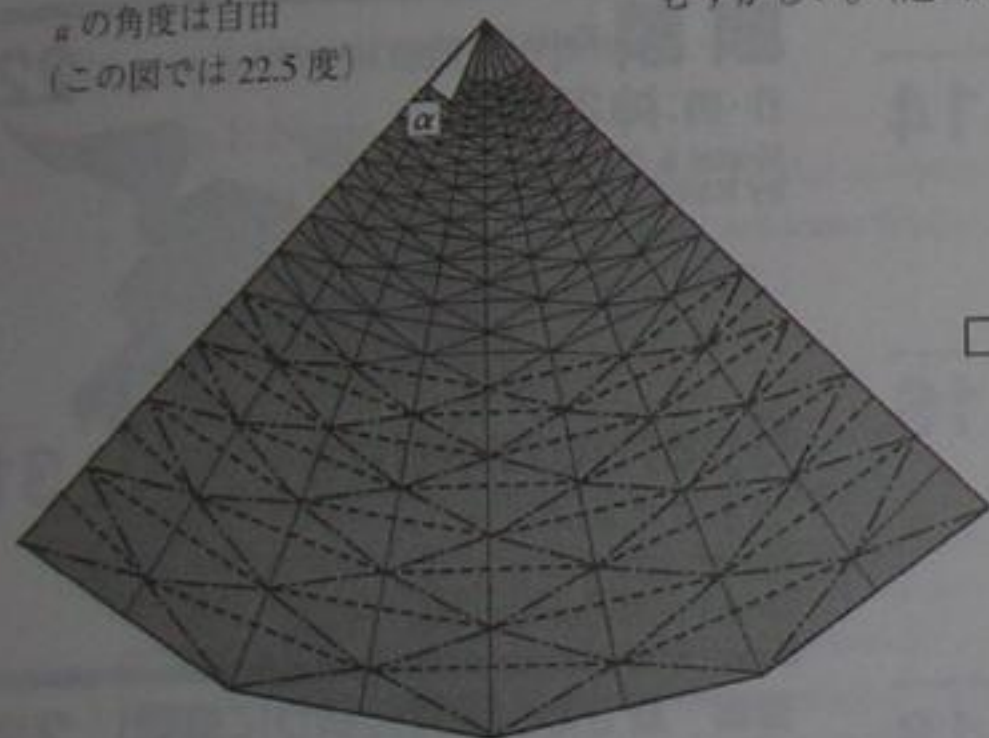
奇数角形の箱を7、9、11角と進んできましたが、今回は毛色のちがうものを紹介します。さて、どんなびっくり箱になりますか。



1994年、大津の成安造形大学で開かれた第2回折紙の科学国際会議で、フランスのビルダ・クレスリングさんは「折り開き折りたたまれる自然」について発表されました。その中で、円錐を真上から一気に押しつぶすと、規則的なうろこもようが出るというものがありました。その発表に影響を受けて、角錐を平らに畳む方法をさがってきて、今回はその途中報告です。箱のふたに応用しました。この折り方を、工事中の道路などで良く見かける「コーン」に角錐をなぞらせて、「コーン畳み」と名づけました。

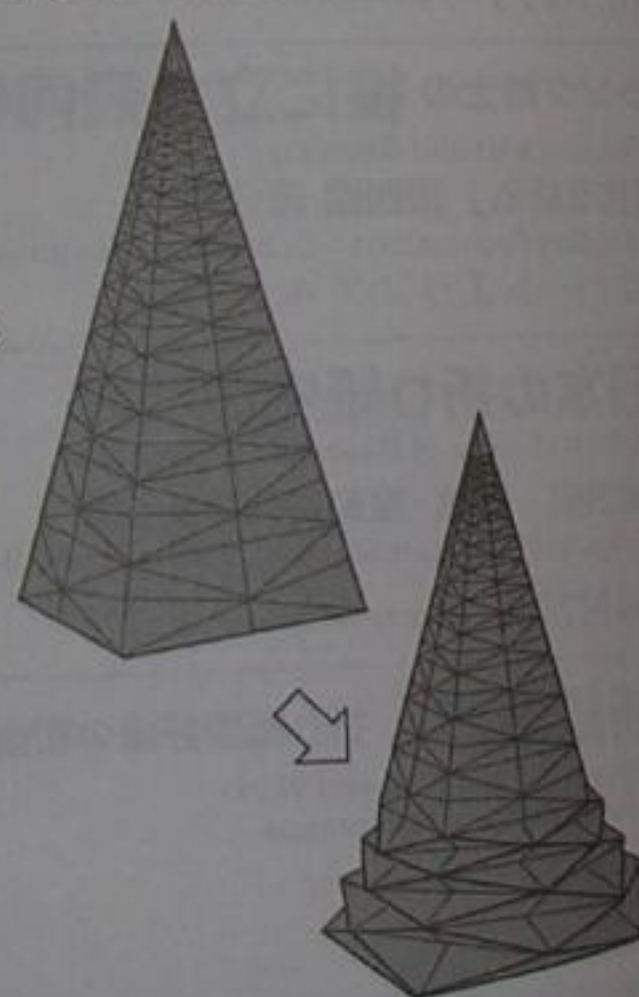
1：四角錐を畳む

αの角度は自由
(この図では22.5度)

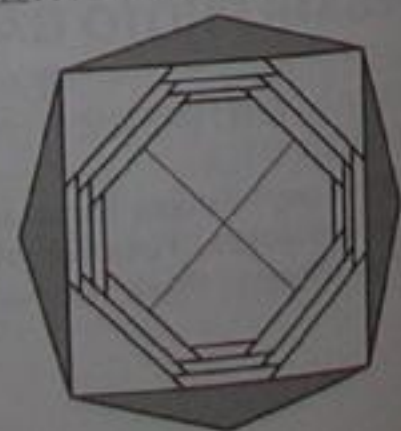


$$B = \frac{A - 45}{2}$$

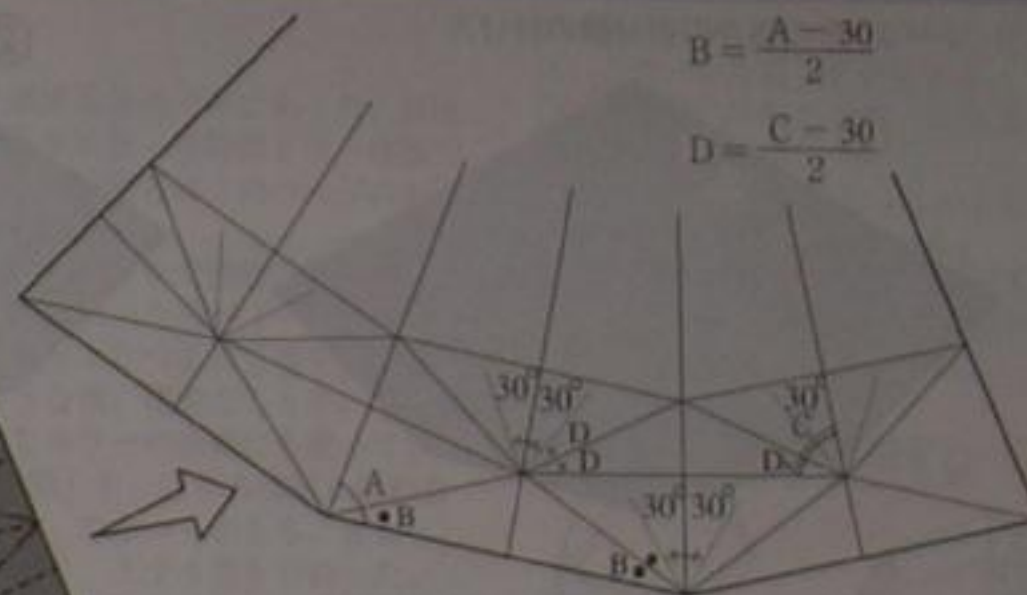
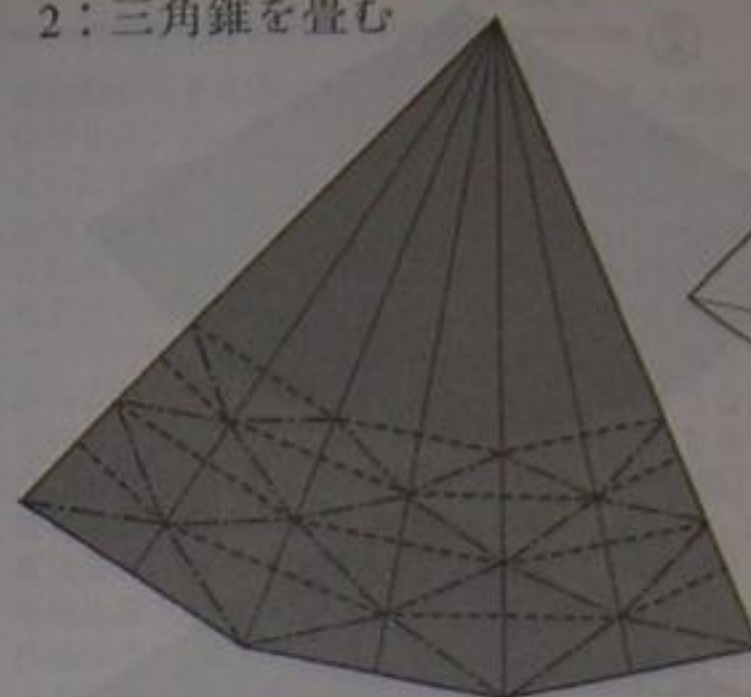
$$D = \frac{C - 45}{2}$$



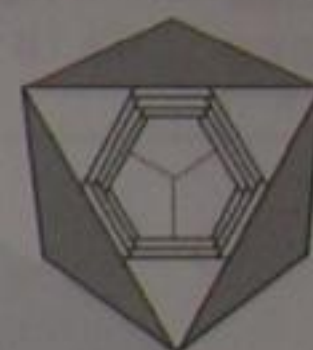
畳んだものを底から見た図



2：三角錐を畳む



畳んだものを底から見た図



3：その他の角錐を畳む

四角、三角と同様な方法で畳むとすると、

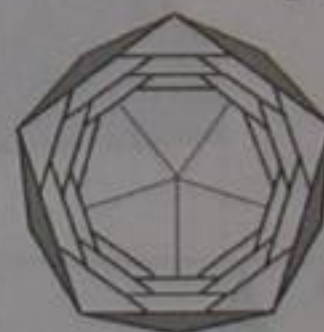
$$\text{五角錐は } B = \frac{A - 54}{2}$$

$$D = \frac{C - 54}{2}$$

$$\text{六角錐は } B = \frac{A - 60}{2}$$

$$D = \frac{C - 60}{2}$$

となる。

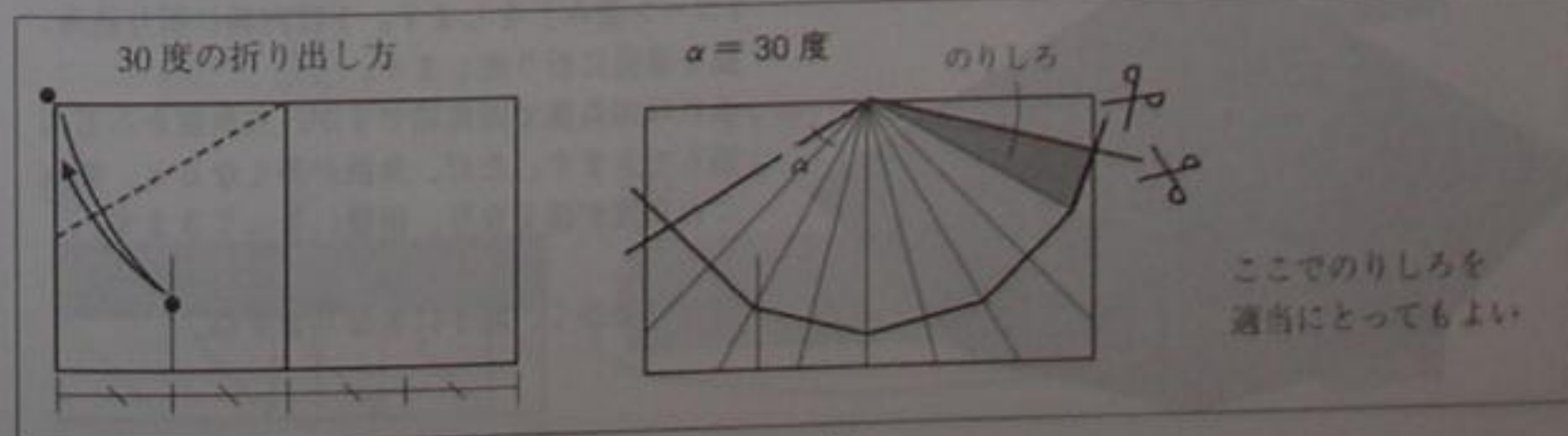


畳んだものを底から見た図

4：四角錐を道具を使わずに畳む

今までの例では、分度器がないと折り畳むことができません。面倒だし、こういうことに興味のある人以外は、眺めるだけでまず折ることはないでしょう。折り紙の基本が道具を使わないことだとすると、素手で折り畳める場合はないでしょうか？ と、ありました。αが30度するとき、作図は簡単になり、道具を使わずに畳むことができます。と言ってみたものの、分度器こそ必要ありませんが、定規と目打ちで線を付けた方がきれいにできます。下に30度の折り出しを書いておきました。

折り方は次のページ →



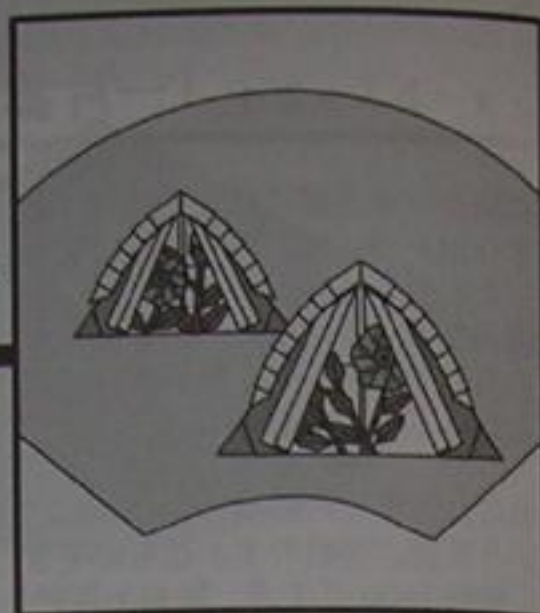
色紙 百花

かんぼたん 寒牡丹

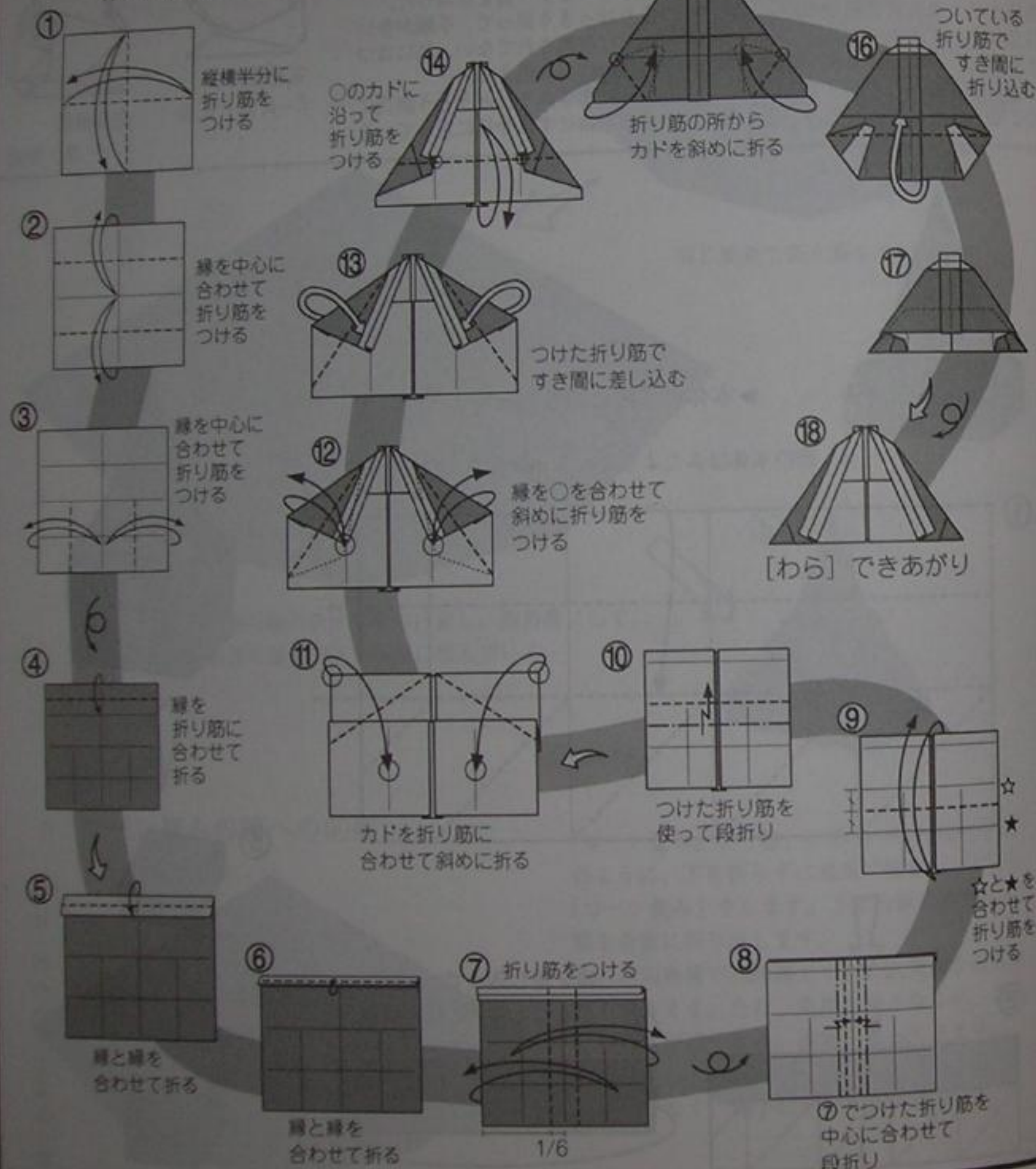
Winter Peony

田中具子
Tanaka Tomoko

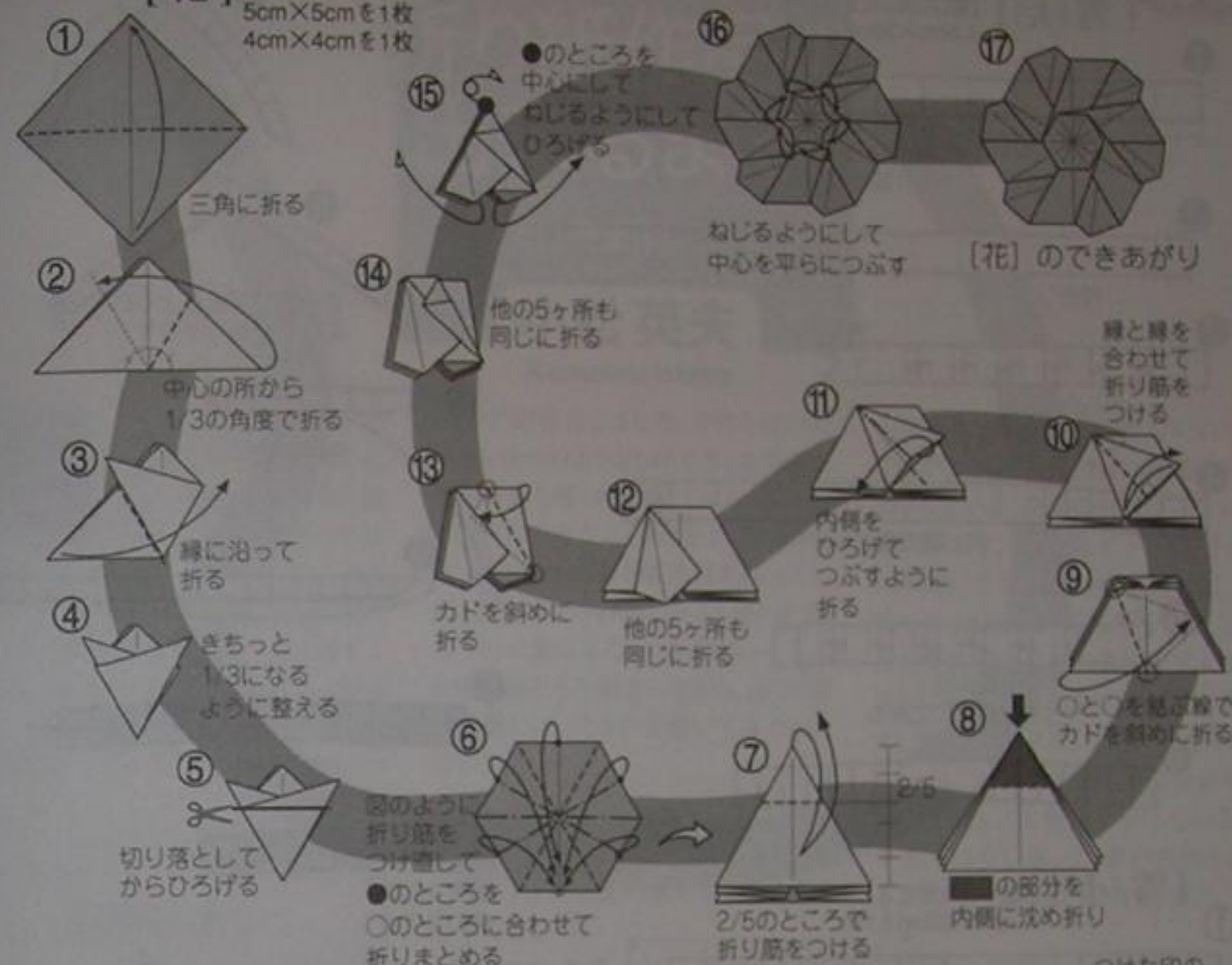
今回の作品は花の部分の仕上がりが小さくなります。わらの部分は紙の裏の色が出ますので、両面同色の紙で折ると良いでしょう。



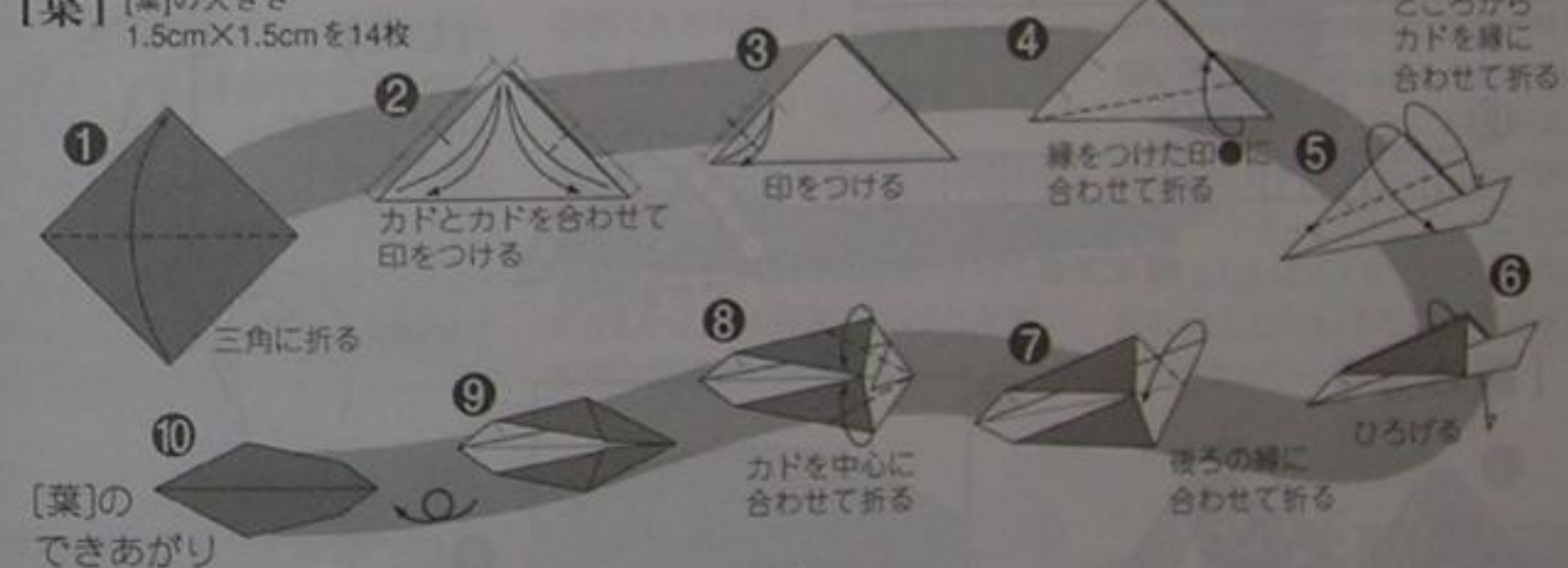
[わら] [わら]の大きさ
20cm×20cmを1枚
15cm×15cmを1枚



[花] [花]の大きさ
5cm×5cmを1枚
4cm×4cmを1枚



[葉] [葉]の大きさ
1.5cm×1.5cmを14枚



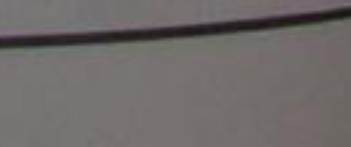
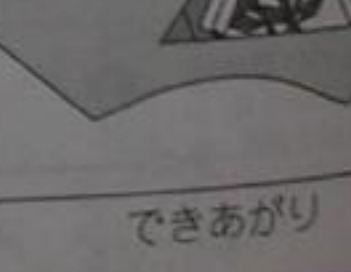
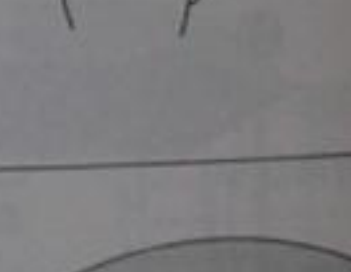
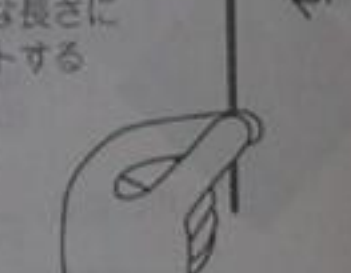
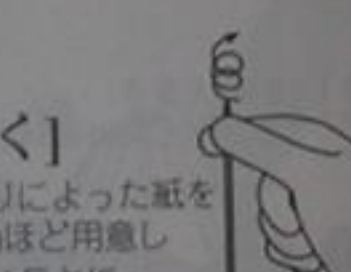
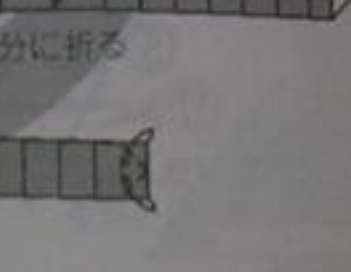
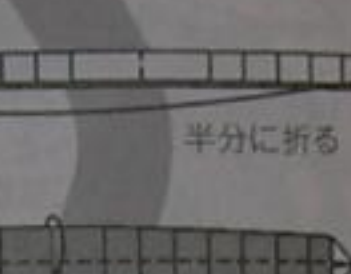
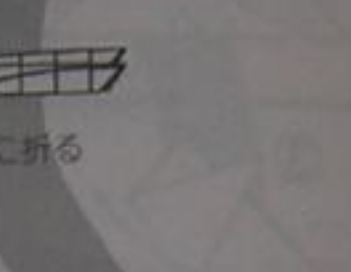
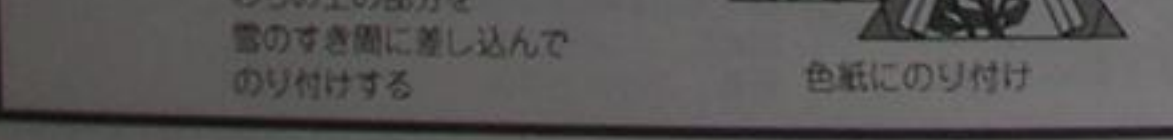
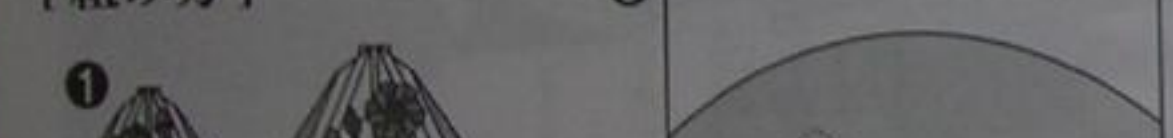
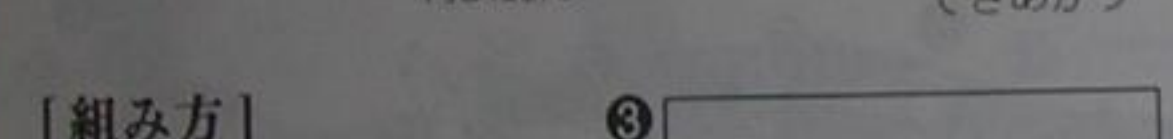
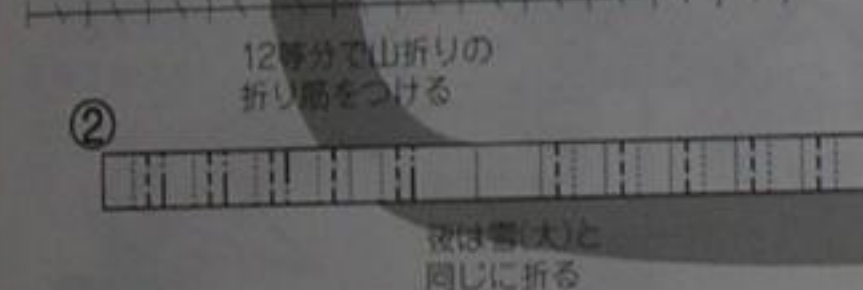
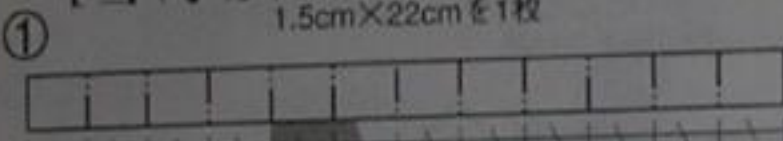
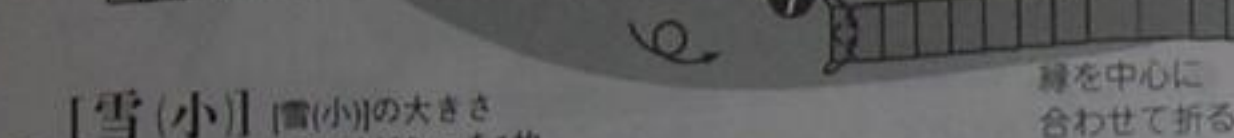
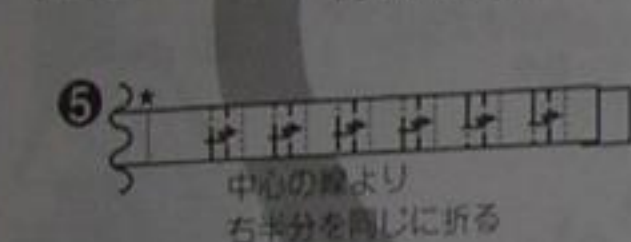
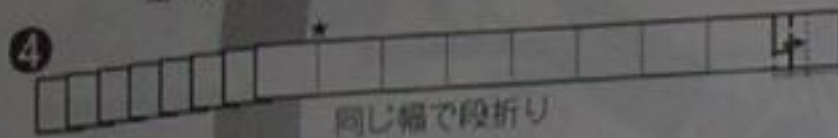
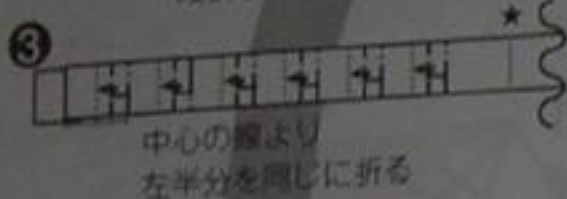
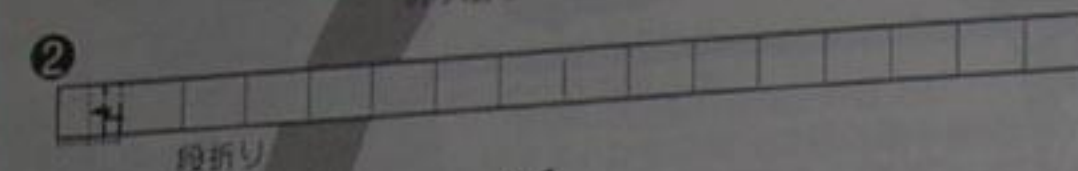
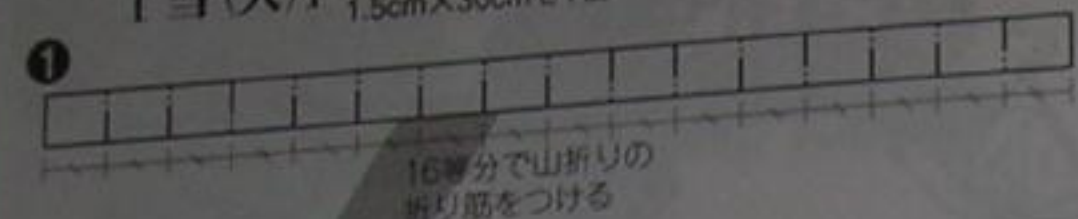
[つぼみ] [つぼみ]の大きさ
2cm×2cmを2枚



[がく] [がく]の大きさ
1.5cm×1.5cmを
半分に切った
三角形を2枚



【雪(大)】 [雪(大)]の大きさ
1.5cm×30cmを1枚

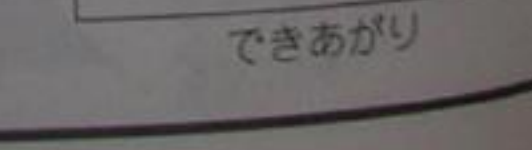
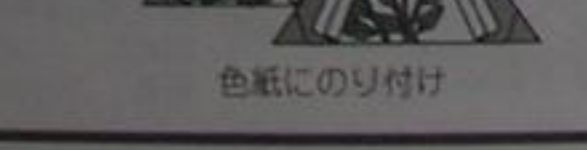
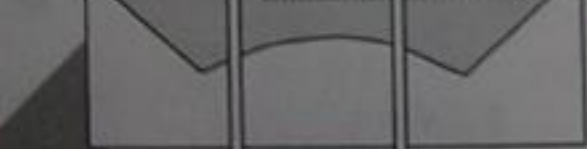
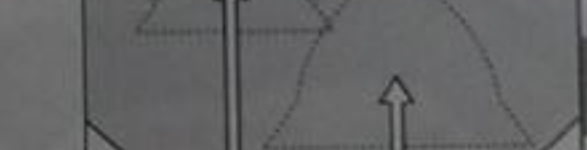
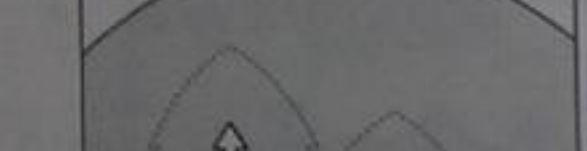
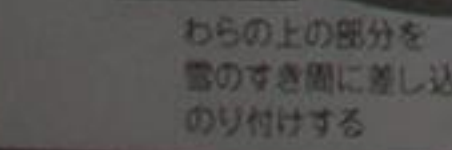
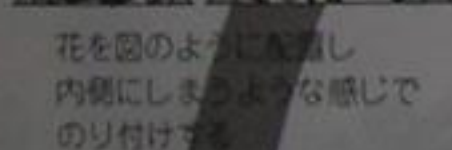


【じく】

こよりによった紙を
20cmほど用意し
適当な長さに
カットする



【組み方】



折り紙作品の 出来るまで

Creating Origami Models
～「馬」を題材にして～
— in the case of "Horse" —

小松 英夫

Komatsu Hideo

はじめに

5月、コンペションの
為に新作を用意したいと
思い、馬の創作に取り組
みました。このモチーフは
高校生の頃から折ってみたいと
思っていたのですが、なかなか
難しく納得する形を得ることが出来ず
いたものです。それが今回あるきっかけ
からちょっと面白いものが出来ました。
その完成に至るまでに、いくつかのプロ

トタイプが存在しました。それらはいわ
ば道しるべのようなものです。ある試み
が最終形を導くのになくてはならなかつ
た、ということがよくあります。はくの場合、
その流れがある偶然性を持っています。
人の目に触れることのあまりない、そんな
試作品たちを組合しながら、はくの前
作体験といったものを書いてみたいと
思います。

次はちょっと説明が難しいので
すが、はくが勝手に「背割れ、腹割れ」など
と呼んでいる、全体の折り出しについで
の問題です。図2を見て下さい。それぞ
れ単純に手足となるカドを折り出したも
のです。Aは馬の基本形を山折りにし
たもので、背中に紙の裏面が見えます。
まれにBのような向きで使うこともあります。
逆にCは谷折りしたもので背中はス
ムーズになっています。Dは分りにく
いですがA、Cを前後で分けているもの
です。Eは少し違って、紙の内部を寄せ
るようにして畳んでカドを折りだしてい
ます。

ただこの分類ははっきりしたものでは
なく、折りが複雑になるとDのように混ざ
りあって折り出されることがあります。そ
してこれらのそれぞれに特長があって
制作者はモチーフに応じてどう折るか
のイメージをふくらませていくことにな
ります。たとえばインサイド・アウト作品を
作ろうとしたらA(またはD)を選択しな
ければならないでしょう。

動物を折る

ケーススタディの前に、「折り紙で動
物を折る」ことについて考えてみます。
ただ紙を折ることによって、無機質な形
からいきいきとした姿が生まれるのは
それだけで楽しいものだと思います。こ
れら2つの異質なものが見立て」によ
って出会う、このことは折り紙の醍醐味の
1つでしょう。

次に実際に1枚の紙から動物を折り
出すことについで考えます。まず

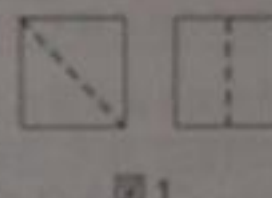
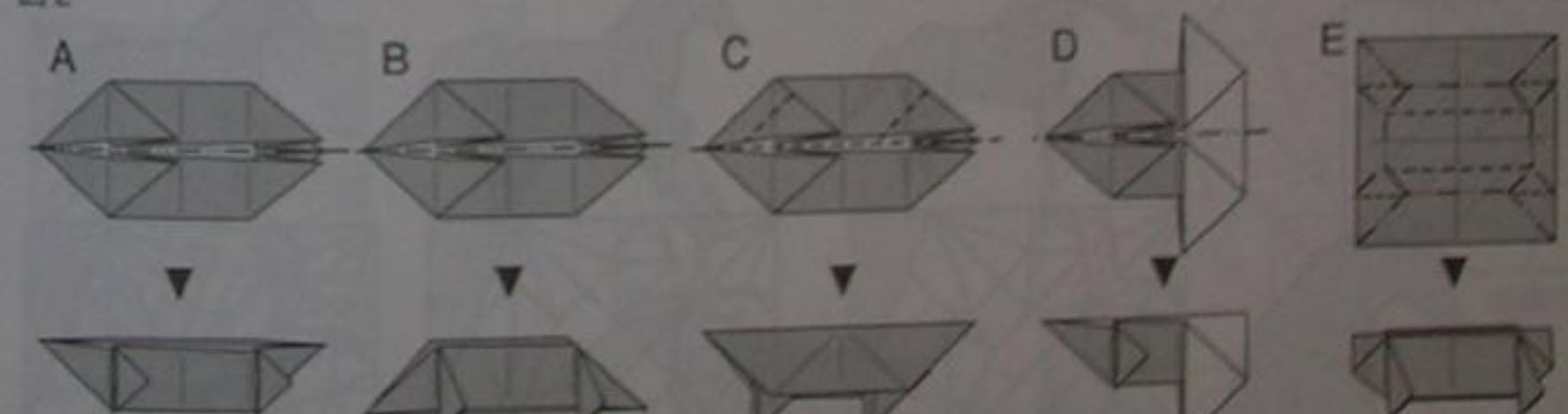


図1

図2



例
「トラ」西川誠司
「ユニコーン」川畑文昭
例
「トナカイ」柳川 洋
「馬」小松英一
例
「Rabbit」R.J.Lang
例
「トリケラトプス」川畑文昭
例
「Boxer」J.Montroll
「馬」吉野一生

馬をどう折るか

馬の写真をしつつ、どんな感じにするかを考えます。以前は目の折り出しやたてがみなどの色分けを試みようとしたこともありましたが、今回は「リス(図3)と同路線のデザイン/構造を持った動物」という、今更かもっとも考えているテーマに沿って考えることにしました。これについては話し始めるととても長くなってしまいますが、一言でいうと「展開図の構造と最終完成形をより融合する」ということです。

図3

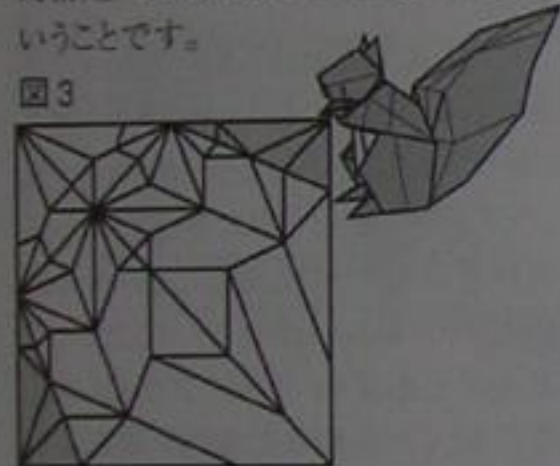
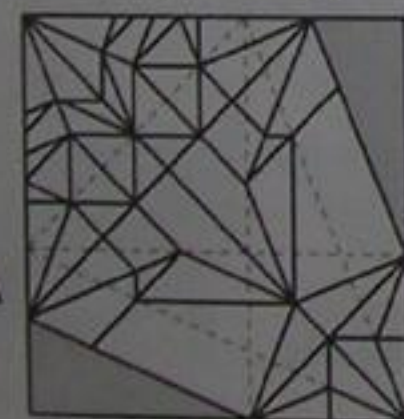


図4



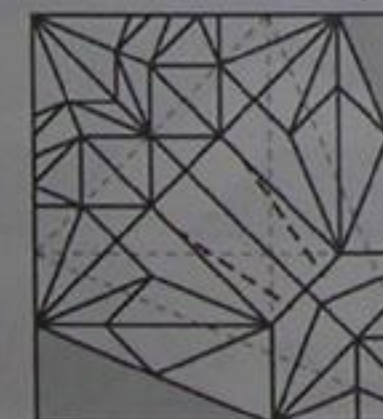
馬の頭部

図5



馬(Prototype-1)

図6



馬(Prototype-2)

図7



馬(Prototype-2.5)

漠然とですがイメージが出来てきたので、大まかなカド配置を決めます。今回は背骨を対角線に取り、スタンダードな「動物の六角形」をベースにすることにしました。実際にカドを折り出したりするのは試行錯誤で行うので、現時点では全体をどう折り畳むかは決定しません。とりあえず頭部構造から折り始めることにしました。写真をスケッチしてどのような面で表すかを考えます。首を曲げたところを折り出したいといくつかのアイデアを試した結果、なかなか面白い形が出来ました(図4)。頭が決まったので次にこれに体をつけることを考えます。

プロトタイプ-1

まずは1:√2の比率をもとに正方形への埋め込みを試行錯誤で試みました。この作業は経験とカンが全てで、折っている最中は実際トランス状態のような感

じです。折り線のパターンとそれから生じる形をひたすらに探していくこの過程は非常に楽しいものです。

そしてまず形になったのは図5です。しかしこれは全く駄目で、胴が短く後足や胴を細くするのがすっきりいきません。

プロトタイプ
—1~2.5

そこで長めと思われる前足の折り出しを変えてみると、胴が長くなり後足も折り出しやすくなりました(図6)。けれどもまだ後足を細くする方法が技巧的で、折り図にしにくい、と感じました。また胴に余計な線が出てきて、これを目立たなくする折り方もなかなか面倒です。

後足の問題は置いておいて、胴の無駄な線を消せないかと折ってみた結果、そのほかの部分に影響のないまま、内部の構造だけが変わりました(図7)。これは嬉しいことに体の「開き止め」の機能を持つものでした。

なかなかまとまってきたので、これで完成か、とも思いましたがやはり後足が気になります。どうやら後足のまわりに余裕がないためと考え、展開図の検討をすることにしました。その結果、全体のカド配置を変更することに決めました。

プロトタイプ
—3.1~完成

前半身はそのまま残したいので正方形の尾の側を拡張することにして、その幅を埋め込みがうまくいくような割合でいくつか考えてみて、一番小さいものでまず試行錯誤してみました(図8)。これは完成形を出来るだけ大きいものにしたいからです。

結果は図9のように、非常にきれいに後足が出てきました。長さも少し長いくらいで、十分に足の関節が折り出せま

○小松英夫=1976年生まれ。埼玉大学教養学部4年。専門は哲学。98年のニューヨークコンベンションに招待作家として参加するなど、国際的に注目されている若手作家の一人である。



おわりに

どうでしたか? 創作をされない方にも、はくが創作過程で感じている「紙がその物になっていくのをただ見ていたり、時には積極的に手助けしたり」というような感覚が伝わったら幸いです。ひとつひとつの作品にそれぞれの創作過程があって、それぞれ作者の体験した感動があるでしょう。作品を折るという折り紙ならではの追体験で、それが伝われば幸いです。

さて、しかしまだやらねばならないことがあります。折り図を描くための折り工程を探さなければいけません。発表を前提とした作品づくりでは詰めの重要な作業になりますが、この「馬」は結構難しくきれいな工程がなかなか見つかりません。この問題が解決し、折り図が完成したらぜひ折っていただきたいと思っています。

振り返って

はじめに創作過程がある偶然性を持っていると書きましたが、完成形の展開図を見てみると、とてもいきなりこれを感じつくことは出来ないと感じます。こういった作者の考えを超えたものが生まれるのはなんだか不思議です。またP-2.5から完成形を得られたのは、展開図的考察なしには出来なかったでしょう。

図8

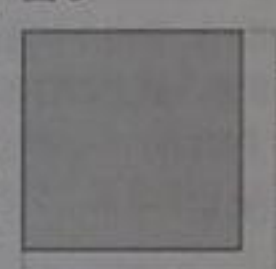
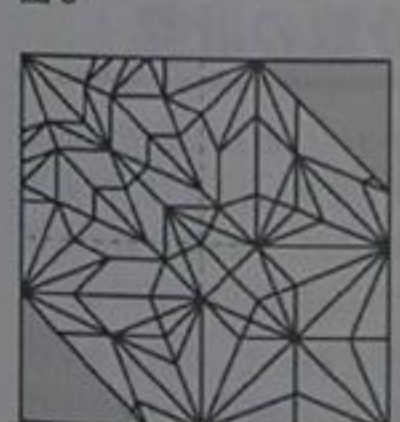
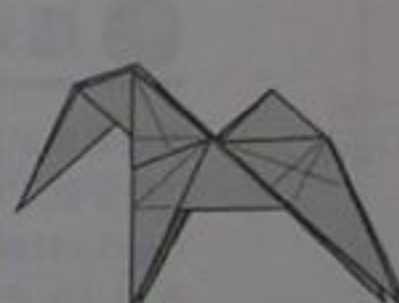


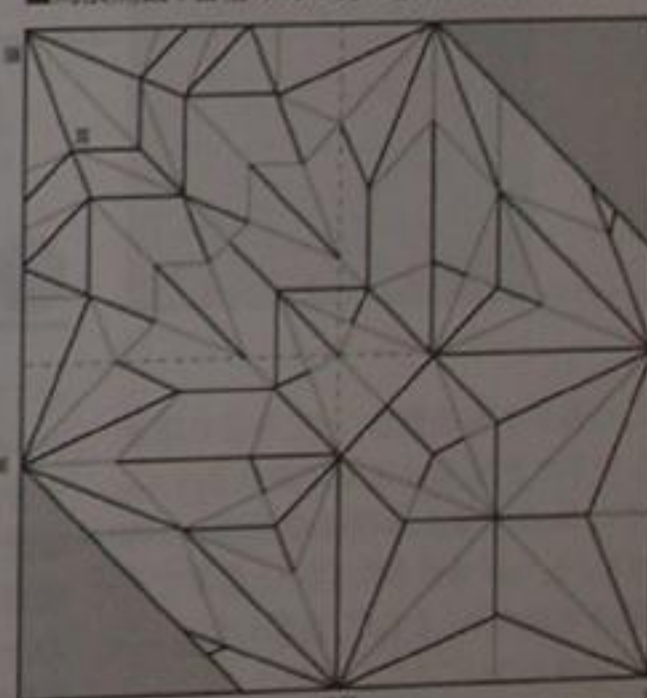
図9



馬(Prototype-3.1)



■馬展開図: 自信のある方は挑戦してみてください



ラング博士 の 役に立つ 幾何学

"Folding Proportions" 「比を折る」

ROBERT J. LANG

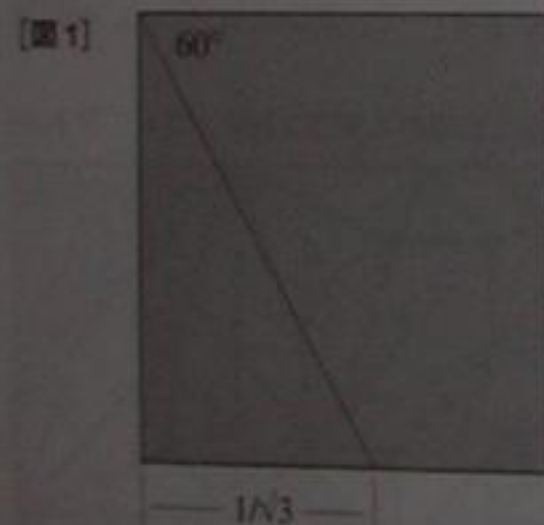
翻訳/羽鳥公士郎

第四回 連分数 Continued Fractions

折り紙では数多くの比を正確に折ることができますが、なかには正確に折ることが不可能な比もあります。また、正確に折ることができる場合でも、たくさん折り目をつけなければならず、実用的でない場合もあります。そのような場合、比を有理数で近似できれば、比較的簡単に折ることができます。そこで、今回は、任意の数を有理数で近似する方法を紹介します。

● 60°を折る

たとえば、正方形の一つの頂点を通る、60°の折り目をつけたいとしましょう。一つの角度が60°である直角三角形の辺の比は1:√3:2ですから、正方形の辺上で頂点から1/√3の距離にある点に印をつければ、60°を折ることができます(図1)。



この長さは無理数なので、今まで紹介してきた方法では正確に折れません。そこで、この値を有理数で近似してみましょう。(60°を折るにはもっと簡単に正確な方法がありますが、説明のためここでは考えないことにします。)

単純に考えると、値を少数で表して四捨五入するという方法が思い浮かびます(式1)。つまり、辺を千等分して、577番目のところを見つければいいわけです。

$$\text{[式1]} \quad \frac{1}{\sqrt{3}} = 0.57735... = 0.577 = \frac{577}{1000}$$

第一回で紹介した二進数法を使うと、もう少し簡単になります(式2)。この場合、十回折れば十分です。しかし十回というのは多いですね。

$$\text{[式2]} \quad \frac{1}{\sqrt{3}} = 0.1001001111... = \frac{591}{1024}$$

● 連分数

そこで連分数が登場します。連分数というのは、式3のようなかたちで数を表す方法です。ここで、 r が問題となっている数で、 b_i は普通整数です。すべての実数は連分数のかたちでかけます。また、一つの数を表す連分数は無数にありますが、 b_i を正の整数に限定すると一

つに定まります。たとえば、3/16は式4のように表せます。

$$\text{[式3]} \quad r = b_0 + \frac{1}{b_1 + \frac{1}{b_2 + \frac{1}{b_3 + \dots}}}$$

$$\text{[式4]} \quad \frac{3}{16} = 0 + \frac{1}{5 + \frac{1}{3}}$$

有理数なら有限個の分数で表せ、無理数ならどこまでいっても終わりません。 r が有理数と無理数の平方根との和であるとき、途中から同じパターンを繰り返します。(式5でも1と2の繰り返しがありませんね。)

$$\text{[式5]} \quad \frac{1}{\sqrt{3}} = 0.577... = 0 + \frac{1}{1 + \frac{1}{1 + \frac{1}{2 + \frac{1}{1 + \frac{1}{2 + \frac{1}{1 + \dots}}}}}}$$

● 連分数の計算

関数電卓があれば、どんな数でも簡単に連分数にできます。たとえば、円周率($\pi = 3.1415926535...$)を連分数にしてみましょう。それには、次のようにします。

- (1)整数部分を引いて、それをかいておきます。(この例では、3を引いて0.14159...が残ります。)
- (2)残りの逆数を計算します。(この例では、 $1/0.14159... = 7.06251...$)
- (3)残りが0になるか、計算機の桁数が足りなくなるまで、(1)と(2)を繰り返します。

◆ロバート J. ラング=Robert J. Lang アメリカ合衆国オハイオ州生まれ。
6才から折り紙をはじめ、折り紙歴は32年。これまでに6冊の著書とCD-ROMを出版する。
代表作の一つ"Black Forest Cuckoo Clock"はテレビ番組「なるほど・ザ・ワールド」で紹介された。
不切正方一枚の昆虫などを得意とするが、近年は折り紙の数学に興味をよせている。
レーザー装置を制作するSDL社の副社長も勤める。カリフォルニア州プリザントン在住。



すると、整数の列が得られます。この例では、 $\pi = (3; 7, 15, 1, 293, 10, 3, ...)$ という列が得られますが、これは、式6を意味しています。

$$\text{[式6]} \quad \pi = 3 + \frac{1}{7 + \frac{1}{15 + \frac{1}{1 + \frac{1}{293 + \frac{1}{10 + \dots}}}}}$$

連分数を適当なところで切り上げて得られる分数を、近似分数といいます。先まで続ければ続けるほど、近似が正確になります(式7)。

[式7]

$$3 = 3.00$$

$$3 + \frac{1}{7} = \frac{22}{7} = 3.1428...$$

$$3 + \frac{1}{7 + \frac{1}{15}} = \frac{333}{106} = 3.141509...$$

$$3 + \frac{1}{7 + \frac{1}{15 + \frac{1}{1}}} = \frac{355}{113} = 3.14159292...$$

$$3 + \frac{1}{7 + \frac{1}{15 + \frac{1}{1 + \frac{1}{293}}}} = \frac{104,348}{33,215} = 3.14159265...$$

近似分数を簡単に計算する方法があります。まず、整数の列を表の一番上にかき、下の二つの列にはそれぞれ0、1と1、0をかきます(表1)。そして、次の規則にしたがって表をうめていきます。

ある升目に入る数は、その行の一番上にある数と左隣にある数の積と、左に二つ目の升目にある数との和である。

たとえば、「3」のすぐ下に入る数は $3 \times 1 + 0 = 3$ 、その下に入る数は $3 \times 0 + 1 = 1$ という具合です。こうして表をうめてゆくと、表2のようになります。これを式7と見比べれば、近似分数が表れていることがお分かりですね。

[表1]

		3	7	15	1	293	...
0	1						
1	0						

[表2]

		3	7	15	1	293	...
0	1	3	22	333	355	104,348	...
1	0	1	7	106	113	33,215	...

● 連分数を使うわけ

近似分数には重要な特徴があります。誤差を小さくするには分母を大きくしなければなりません。それぞれの近似分数は、次の近似分数が出てくるまでは、もっとも誤差の小さい分数なのです。たとえば、22/7は、分母が106より小さい分数の中ではもっとも π に近い分数です。また、355/113は分母が33215より小さい分数の中でもっとも π に近いのです。折り紙で1/√3を折るには、22/7でさえ π とは0.001しかちがいませんが、7/22を折れば十分です。7/22なら前回までに紹介した方法で折れますね。

A BRIEF HISTORY OF PAPERFOLDING IN JAPAN

Okamura Masao

第四回

鎌倉・室町時代の折り紙

岡村昌夫

一九四四年東京生まれ。都立高校の国語教師を五年前に定年退職。折り紙以外の主な趣味は能・歌舞伎を観ること。

武家社会の礼法折紙

鎌倉時代の折り紙と言えば、「実用折り紙」が存在していた。物を包んで保管したり、携帯したり、贈答に用いたりするために、紙を折り畳んだはずである。ただし、婚礼などに使用する装飾用の折り紙などの「儀礼折り紙」や、贈答の際の「礼法折り紙」は存在していたとしてもまだ未発達段階だっただろうし、「実用折り紙」といってもそれほど様式化されてはいなかったと思われる。

平安時代以来、公家の正装のときに懐中に入れて扇を挟むのなどに使用された「帖紙(たとうがみ)」は、ずらして横に二つに折ってから縦に四つに折って長方形にしたもの、お白粉などを包んで手箱に収めたもの(これも帖紙)は、一方の端を折り返して、正方形にしたものだったらしい。当時の現物は残されていないが、後世の遺存例を見るとそのような程度の折りだったようだ。用紙は豪華な装飾性のあるものである

が、折りはシンプルで、飾り折りはしていない。ただ紙を重ねて小口をずらすようなことはしていたと思う。

室町時代には、上流武家社会の礼法折り紙が発達していた。「折形」と言う用語がいつからあったかは不明である。それは即ち、「礼法折り紙」もしくは「儀礼折り紙」がいつからあったか不明というのに等しい。

従来の公家の折り紙と、足利将軍のところに整備されてきた武家の折り紙の大きな違いについては、先ず、用紙の点では、公家が染め紙などを何枚も重ねたのに対して、武家では白紙

読む

日本の折り紙史を

連載・岡村研究II

を二枚重ねて用いること。折り方では、公家では紙の各辺と直角に交わる折り線を用いて単純に折り畳み仕上がり(巾)が長方形や正方形になるのに対して、武家では紙を斜めに用いることが多くて、折り線は平行になる場合とならない場合があって、仕上りの形は非対称を中心として、複雑に変化する。この武家の新技法は公家の折り紙にも影響を与えていったと思われる。

この時代の折り紙の遺存物としては、14世紀末の熊野連玉大社の国宝紅帖紙や春日大社蔵の帖紙があるが、これらは、平安時代以来の公家社会の伝承形式によったものと思われる。武家社会の折り紙については、江戸時代になってからの記録から推定することができる。

伊勢流と小笠原流の折り紙

江戸時代に書かれたものだが、伊勢貞丈の「包之記」をひもといて、足利

幕府時代の「折形」を見てみよう。「包之記」は「結之記」と合わせて「包結記」と呼ばれ、「包結図説」の題で1840年に刊行されたが、書かれたのは1764年だった。そしてこの書は、江戸幕府に任命された礼法専門職の「高家」と呼ばれる「小笠原」「伊勢」「吉良」の三家のなかで、折形の「秘伝」を正式に公開した唯一の書であった。

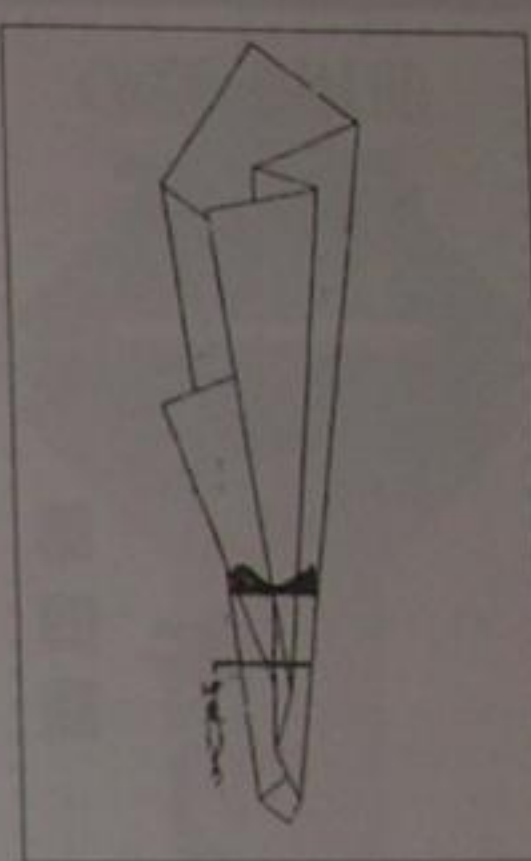
まずその奥書を現代語に訳してみよう。「以上は、伊勢家に伝えられた包み様、折形である。これ以外に折形は無い。筒状に巻いた物(巻物)、薄い板に巻き付けて板状にした物(板物)、短い物、以上の三種の包み方でもって、どんな物でも見計らって包めばよい。これらの折形は京都(足利)将軍の御代に使用なされた折形である。料理の膳に使う甲立などの折形は、当家では関知しない。食物に付ける折形は包丁人の家で知るところである。」品物の形によって基本的な包み方があって、あとは応用せよということで、掲載されているのはわずかに22種である。しかも本来は包丁人の流儀に属した酒器を飾る蝶花形なども含めた数である。これで全部というのだから、後世の「小笠原流」とは大きく異なっている。

上流武家社会の男性用の礼法を一般化し、女性にまで広げたこと、折形に関しては、包む品物の種類ごとに異なる折形を作ったことが、江戸時代になってからの「小笠原流」が一世を風靡した大きな理由であるが、この2点は伊勢流の主張と全く異なっている。

小笠原家では関知しない態度を守っていたが、もとの門人などによって世に流出した形だったので、有る意味では自由に創作が出来たわけだ。伊勢貞丈が、正規の伝承を重視する礼法家の立場で「故実が無いことを教えている」と非難しているが、世の中の変化に合わせて需要に応じていったからこそ「小笠原流」が繁栄したわけで、折り紙の技術の進化の面

で大きな意味を持つことになる。しかし、室町時代には、伊勢流も小笠原流もあまり大きな違いはなかったのではないかと「吉良流」については資料を持っていないので、分からない。

「包之記」の前の方には次のようなことも書いてある。「物を包むには、その物が少し外へ見えるように、両端を出して包むものである。品物が何だか判らないように紙の中に包み込んではいけない。……ただし、葉や香などは、こぼれるものなので包み込まなければいけない。……」この原則は「小笠原」でも同じである。従って中の品物が何だか判りなくとも判るように折形の数を増やしたという考えは当たっていない。



■「包之記」より 木の花包み

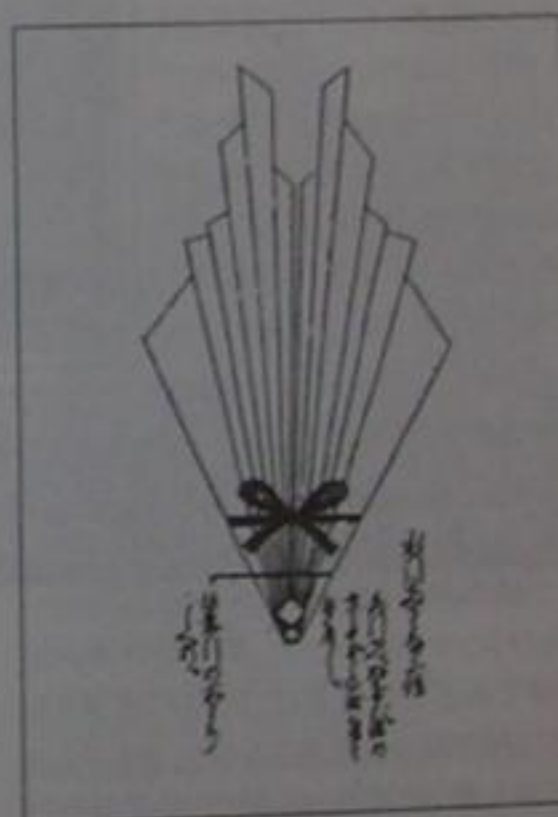
礼法折り紙の用紙形

江戸時代になってからの「小笠原」の折形には正方形の用紙を用いて左右対称にしたものもかなり混じっているが、本来、武家の礼法折り紙は、長方形の紙で非対称の形に仕上げることに特長があった。室町時代のものばかりという伊勢流の折形を「包之記」で見ると、もとは「大勢流」「進士流」の包丁人の流儀に属していたはずの「蝶花形(男蝶・女蝶)」「瓶子の

口」と、他には「扇包み」だけが正方形で、あとは長方形である。この「扇包み」は扇10本をまとめて包むもので、説明文によると、昔は京都の「城殿(きどの)」という職人に折らせたもので、色とりどりに美しい。薄様の紙を重ねて畳んだというから、これは公家との関係が濃い折形だろうと思われる。

折形の図や、折り見本としての「雛形」は用紙一枚で、包む品物の厚みをゼロと仮定して平面的になっているが、実際には立体的な品物を包むのだから、図や雛形のとおり折るわけにはいかないものもある。しかも、正方形で折るものは、紙の大きさを物に合わせるだけで全て相似形が作れるが、長方形の場合は縦と横の長さの比率が判らないと図や雛形に合わせるのは極めて困難になる。どうしても師匠から口伝を受けなければならないのだ。

江戸時代以後、道義折り紙で正方形の用紙が普通になったのには、このような理由があり、町の礼法の師匠が繁盛したのも同じ理由が大きかったと思う。



■扇包み

前川 淳の 折紙散歩 第四回 折り紙愛好家の 初詣

~ Paper folder's
Hatsumode ~

今立町に行ってきました。十五年振りで、外国からの折り紙のお客さんを連れていくのに、京都から今立は、最適なコースかもしれません



著者紹介：東京生まれ、折り紙創作・研究家。折紙モノコレクター。「一足めのわらじ」は折り紙で作る。数種タイガースの熱狂的なファン。

On New Year's Day, about 60% of Japanese people visit Shinto shrines or Buddhist temples to pray for good luck. This article introduces some shrines and temples suited for paper folders. These holy places are dedicated to Kami(gods) of Kami(paper) or have something in relation to origami.

神様の得意分野

決闘に向かう宮本武蔵。道端の祠に加護を求めようとするが、思い直して脚を速める。「神仏は尊し、されど神仏に頼まず」…。一方、初詣の人出は毎年7000万とかで、みな頼みまくっている。かく言うわたしも、ここ数年初詣を欠かしていない。願ひ事は阪神タイガースの勝率五割達成などだが、どうにも叶えられない。ささやかな願ひだと思ふのだが、神の手に余る、あるいは管轄外の

願ひ事だったのだろう。そう、神仏にも管轄がある。そして、これがびっくりするほど細分化されていることがある。例えば、イボ・ウオノメ専門の神様などもある。つまり、その神様に折り紙の上達を祈っても、ご利益は薄そうである。というわけで、今回のテーマは、初詣をひかえての厳選情報、折り紙の上達に御利益がある(かもしれない)神社仏閣についてである。

岡太(おかもと)神社(福井県今立町)

冒頭、宮本武蔵の話から始めたが、武蔵とくれば佐々木小次郎。妙な具合に話がつながる。小次郎の生地は越前の今立で、そこに岡太神社という古社がある。この神社が、武芸より折り紙上達向きの神社なのだ。小次郎が武蔵に負けたのはまさかそのせいではないだろうが、祭神が紙の神様なのである。千五百年前に紙漉きを伝えた謎の姫で、「川上御前」と呼ばれる。千五百年前という数字はたいへんなもので、日本で一番古い紙の伝来を意味する。今立町は今でも紙漉きが盛んな土地で、それを観光の目玉にしている。町の中心部は、さながら和紙の小

テーマパークといった趣きで、この連載で一回特集をしてもよいぐらい見どころが多い。



岡太神社 左は祭礼の提灯
Okamoto shrine and a lantern for the festival in Imadate
This shrine is dedicated to Megami (Goddess) of Kami (paper).

忌部(いんべ)神社(徳島県徳島市)、鷺(おおとり)神社(東京都台東区)、鷺子山上(とりのこさんじょう)神社(茨城県美和村・栃木県馬頭町)、白紙神社(山梨県市川大門町)

紙の神様と言えば、天日鷲命(アマノヒワシノミコト)もそう。阿波忌部氏の祖神である天日鷲命は、阿波の紙漉き唄に「神の授けた紙漉きならて、親も子も漉く孫も漉く」と唄われる神だ。忌部神社は徳島市内の他に徳島県内外に何ヶ所か

あるが、残念ながらわたしは参拝の機会を得ていない。

西の市で有名な東京千束の鷲(おおとり)神社の祭神も天日鷲命である。西の市で名高い堺市の大鳥(おおとり)神社の祭神は天日鷲命ではないが、

かりはあるかもしれない。オオトリ神社は他にもあるので、調べてみてはどうだろう。また、茨城県栃木県境の鷲子山(とりのこさん)頂にある鷲子山上神社、山梨県市川大門町の弓削(ゆげ)神社の祭神・白紙神社も、天日鷲命を祀り、紙業者の信仰を集めてきた神社である。

鶴岡八幡宮(神奈川県鎌倉市)

祭神は紙とは関係がない。御想像のように「鶴」がポイントである。境内で手にはいる「金と銀の折鶴」の出来がすばらしい。2cmぐらいの小さいものだが、羽の裏の筋もきちんと細工されている。また、鎌倉に行った際は、鎌倉最古の寺である杉本寺まで足を伸ばして、「折鶴絵馬」も手にいれることをお勧めする。



鶴岡八幡宮のお守りと杉本寺の絵馬
Mascots of Tsurugaoka Hachimangu shrine and a votive board of Sugimoto temple in Kamakura.

三岳寺、長圓寺(三重県菟野町、桑名市)

初詣はおもに神社だが、お寺に行っておかしいことはない。明治の神仏分離までは両者ごちゃまぜだ。さきの鶴岡八幡宮の八幡様も、八幡大菩薩と言うくらいで、神か仏かどっちだかわからない。で、三重県菟野町湯の山温泉の三岳寺は、若い男女の恋物語「折鶴伝説」を伝える寺、同県桑名市の長圓寺は、言

わずとした「千羽鶴折形」の魯稿庵が住職をしていた寺である。

三嶋神社(静岡県三島市)

中部地方を代表する神社のひとつ三嶋大社には、内山光弘氏(注)考案で中西康夫氏が折る、恵比寿と大黒天の「折紙神像」がある。数が少ないので、簡単には手には入らないかもしれない。

安倍晴明神社(京都府京都市)

一条戻橋にある、陰陽術師・安倍晴明を祀った神社。異論はあるだろうが、「宇治拾遺物語」にある、紙から「白鳥をひき出す」んだとの記述により、筆者は勝手に折り紙の祖のひとりと考えている。晴明は、最近では小説やマンガで取り上げられることも多く、初詣に行くと、たぶん、京極夏彦さんや夢枕獏さん、岡野玲子さんのファンが大勢いるだろう。なお、京都では、御所に隣接する護国神社の猪の札も、折り紙作品を思わせ



安倍晴明神社
Abeno Seimei shrine in Kyoto.
Abeno Seimei is a medieval magician who created (folded ??) a living bird from a sheet of paper.
(Photo by Peter Engel)

折紙辞典

【内山光弘】(うちやまこうこう)
本名、道郎(みちお)。近代折り紙草創期の創作者。
よく知られた業績に、複数枚の紙を重ねて折り、様々な模様をつくる「花紋折り」がある。正方形一枚折りを切り開いた内山興正氏の父でもある(「切り開いた」と言っても、誤は使っていない)

【ギャラリーおりがみはうす】(ギャラリーおりがみはうす)
東京都文京区白山にある、日本で(世界で?)唯一の折り紙作品の常設ギャラリー。作品の展示の他、折り紙本の制作や、紙、書籍の販売も行う。日本折紙学会とは独立した事業体だが、日本折紙学会の事務と学会の機関誌「折紙探偵団」の編集も委託されている。名称は、よく間違われるが、「折り紙ハウス」でも「おりがみハウス」でもなく、ひらがなで「おりがみはうす」である。えのきどいちろう、いとうせいこうの同類だ。他にはおおのひろみさん、とか(いかん、内輪ネタすぎる。ちなみに、おおのさんはインターネット版「折紙探偵団」(<http://origami.gr.jp/>)掲示板の常連である)

白山神社(東京都文京区)

諏訪神社、熊野神社などとともに、全国フランチャイズチェーン展開(?)をしている白山神社だが、折り紙に関係があるのは、取りあえず文京区白山の白山神社のみである。「ギャラリーおりがみはうす」(注)が地元の縁で祭礼に協力しているからだ。しかし、神様の「専門分野」は、案外こんなところから決まっていくなのかもしれないと思う。200年後を想像してみるのも一興だ。

折紙八幡宮(青森県大鰐町)

青森県大鰐町の人口80人ほどの集落・折紙にある八幡宮。地元で「折紙八幡宮」と呼ぶのかどうかは、実は定かではない。いずれ調査隊を組織し、真相を解明する予定である。

ORIGAMI PHOTO GALLERY

■色紙百花は「寒牡丹」(P.8)です。わらで作られた雪よけやその上に積もる雪の優しい表現が、雪よけの中で咲く牡丹の花の色と相まって、冬の情景であるにも関わらずほっとした暖かみを感じられます。

■今回のびっくり箱は、前回までの奇数角形箱からさらに複雑な「コーン畳み」(P.4)。科学的な裏付けをヒントに制作されたというこの作品、ミクロの世界への広がりを感じさせます。

■海外からの作品を紹介します。先日来日した海外作家の一人Eric Joisel氏(P.35)の「Mask」。一瞬、彫刻かと思わせるその造形は、独特で真似の出来ない雰囲気を出しています。日本における従来の折り紙イメージをうち破る作風を堪能してください。

■55号の展開図折りマニアをうならせた若手作家、神谷哲史くんの新作「麒麟」(P.22)が満を持して登場。リアリティのある立体感ですが、の一言につきます。



「寒牡丹」作:田中具子(P.8)
Winter Peony by Tanaka Tomoko (P.8)

■雪の中、ひっそりと咲く赤い一輪。静かな雰囲気の中に生命力の強さが秘められた様な情景です。

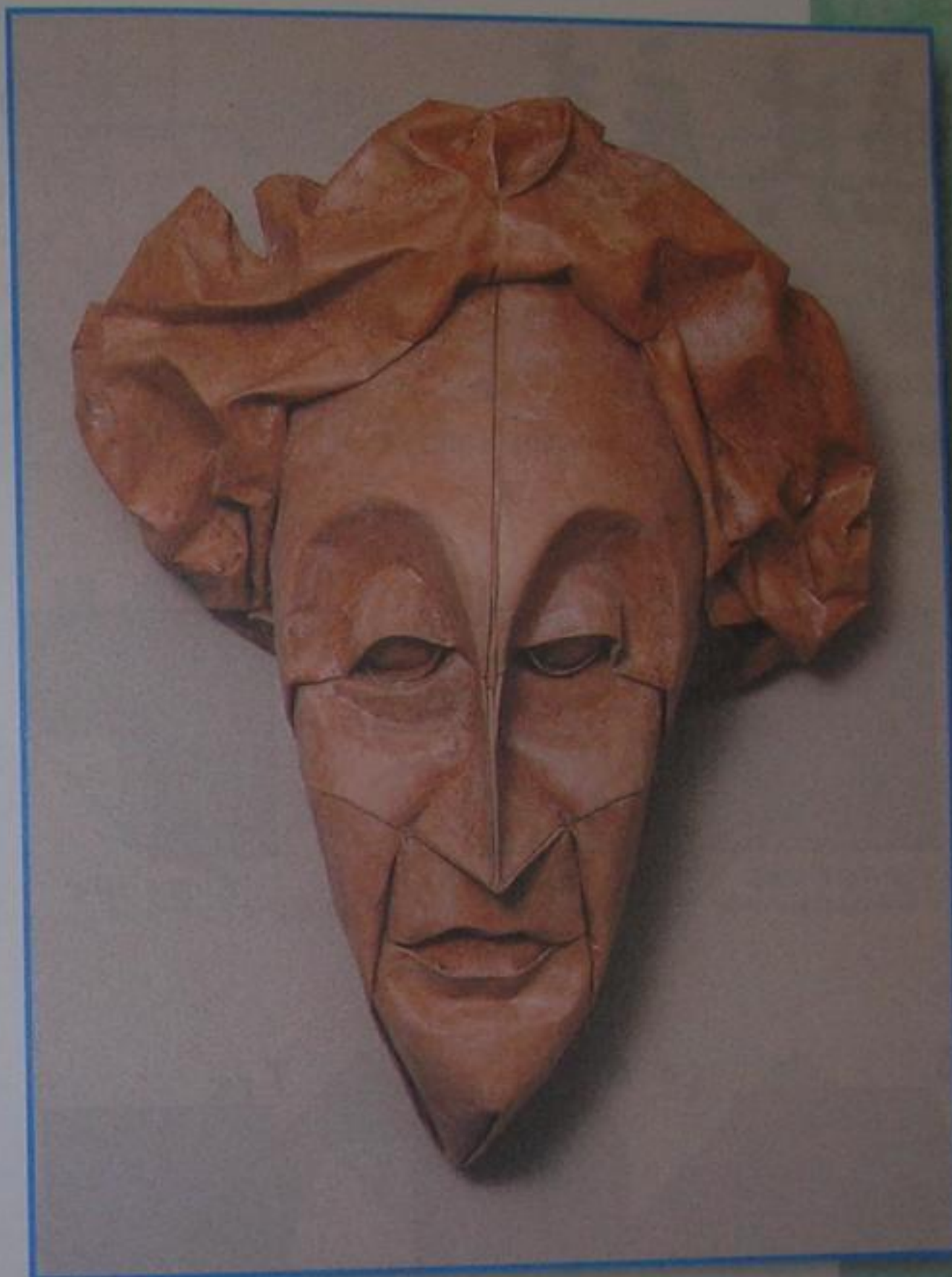
「コーン畳み-その応用ボックス」
作:布施知子(P.4)

Folded Cones and Boxes
by Fuse Tomoko (P.4)

■規則正しいこの模様がユニーク。今回の折り図は途中報告とのこと。今後の展開が楽しみです。

「Mask」
作:エリック・ジョワゼル
Mask by Eric Joisel (P.35)

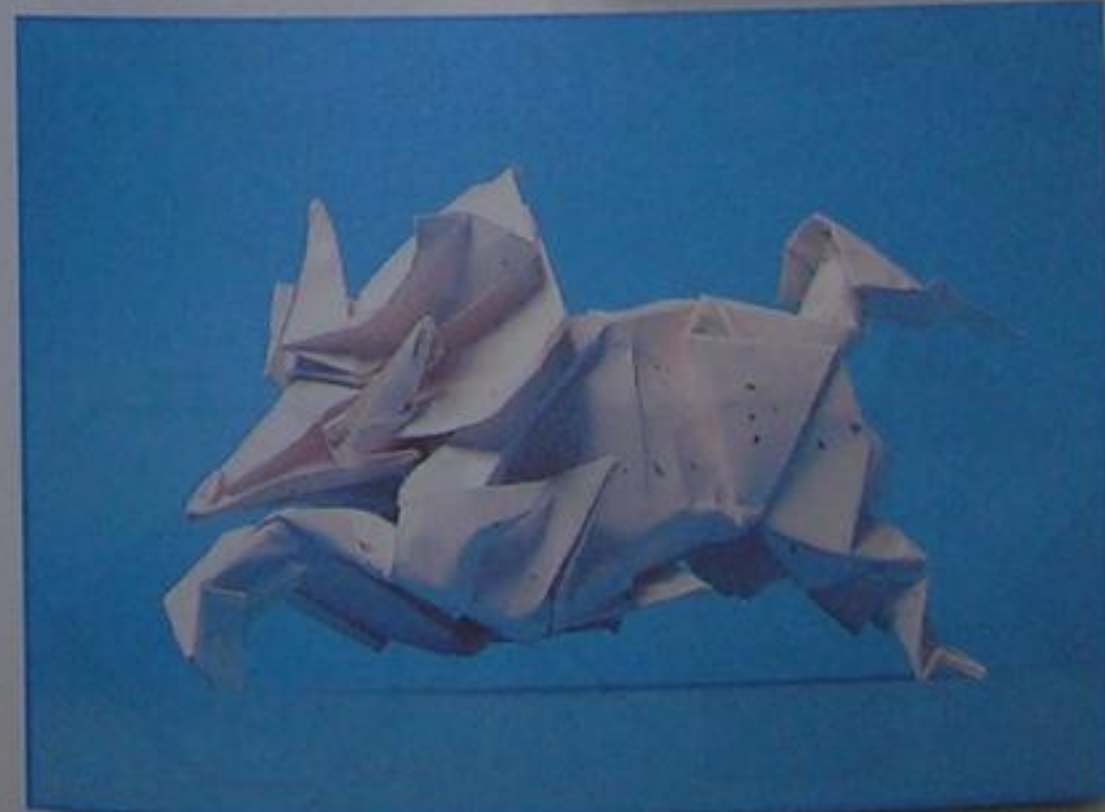
■髪の毛の表現や鼻から口元にかけてのラインが秀逸。曲面の美、と言う言葉が思い起こされます。



「麒麟」
作:神谷哲史

Kylin (Eastern Unicorn)
by Kamiya Satoshi (P.22)

■聖人君子が世に出ると現れるという麒麟。ビールのマークとしてもおなじみですね。



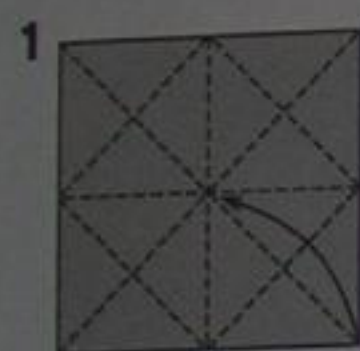
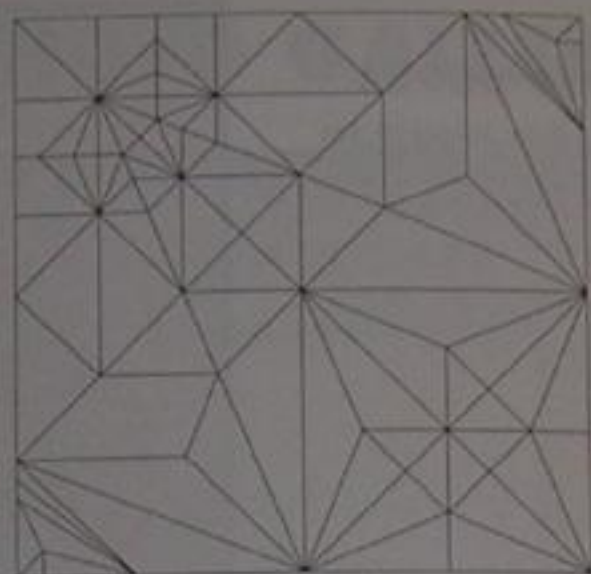
鹿其鹿其

神谷 哲史

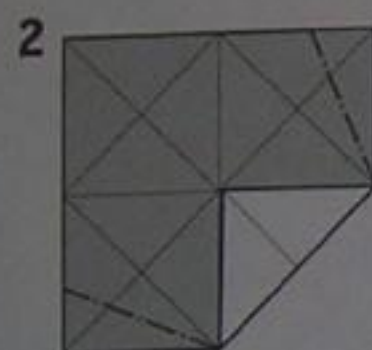
創作 1998 年 10 月 1 日

作図 1999 年 10 月 18 日

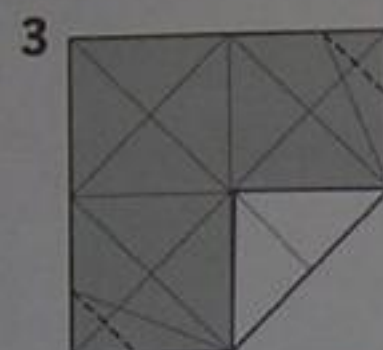
Model&Diagrams by Satoshi Kamiya



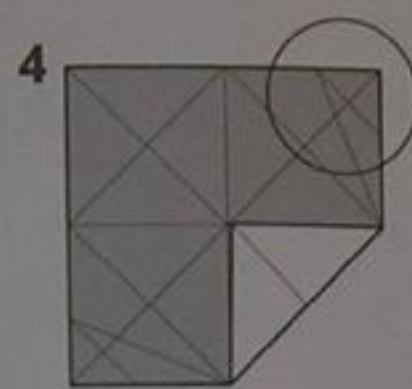
折り筋をつける
一つは折る



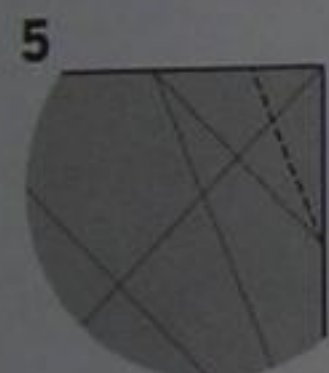
折り筋をつける



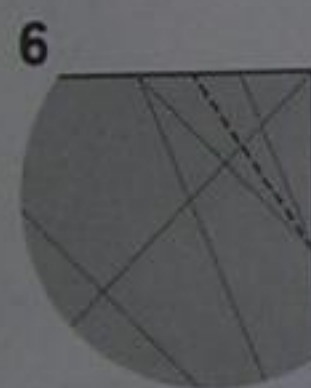
折り筋をつける



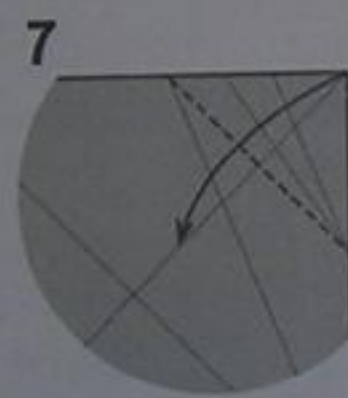
拡大



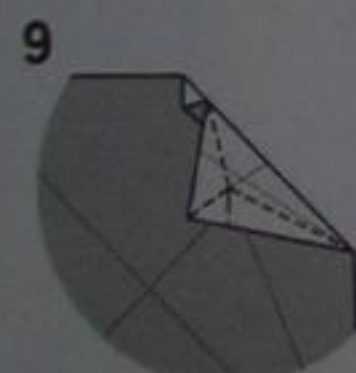
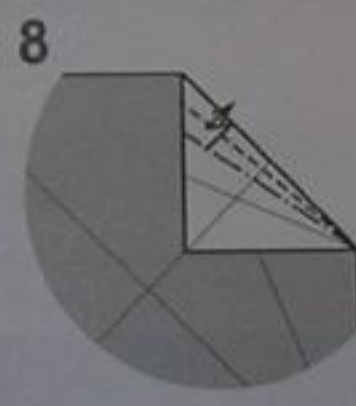
角度の半分で
折り筋をつける



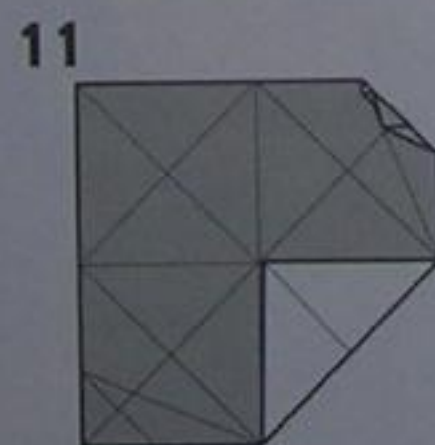
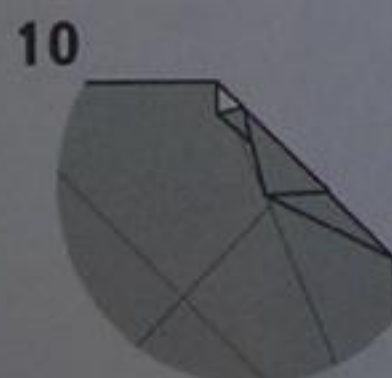
さらに半分の角度で
折り筋をつける



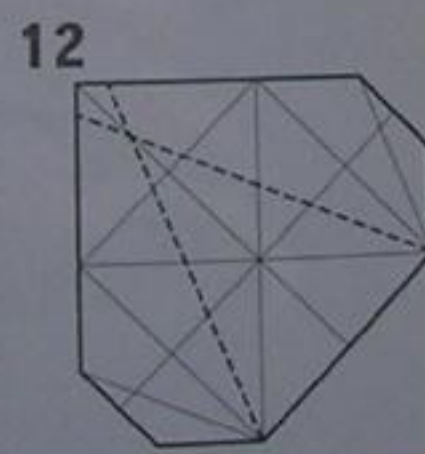
段折りをする



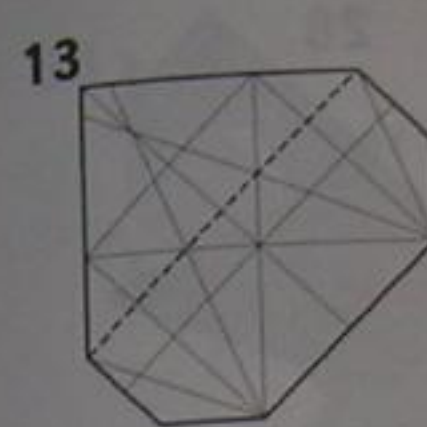
つまみ折りをする



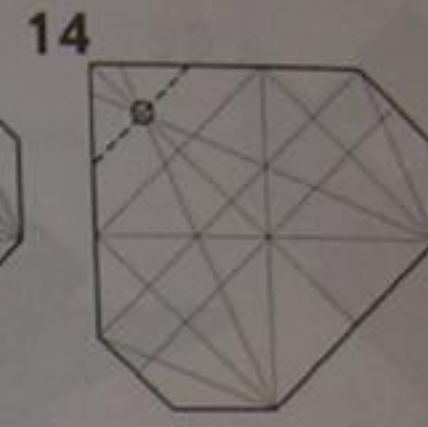
反対側も同様に折る
ひっくり返す



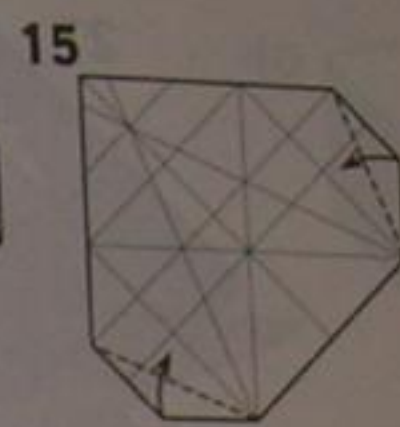
折り筋をつける



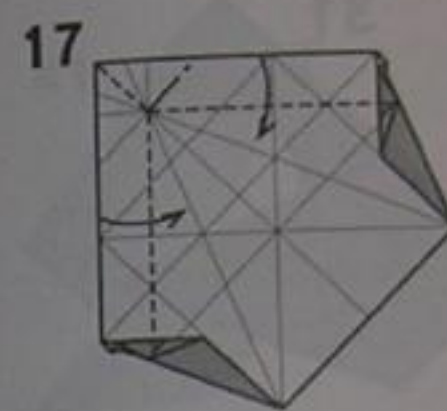
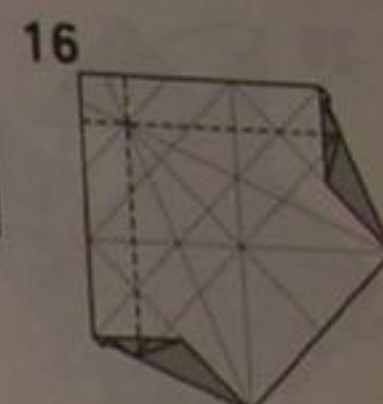
折り筋をつける



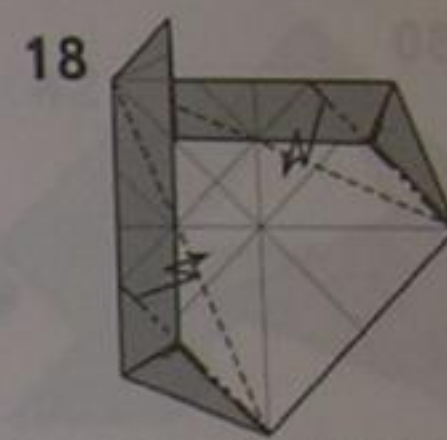
折り筋をつける



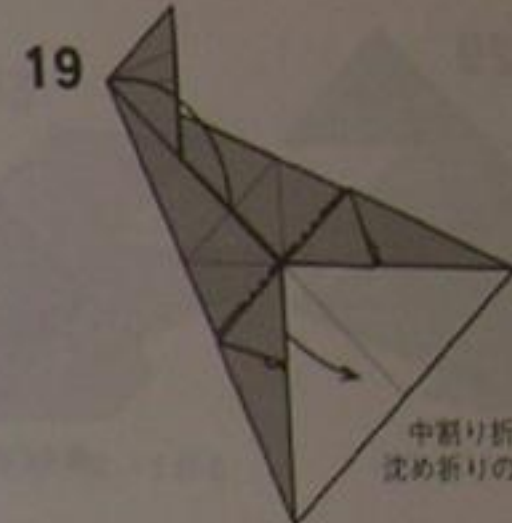
折り筋をつける



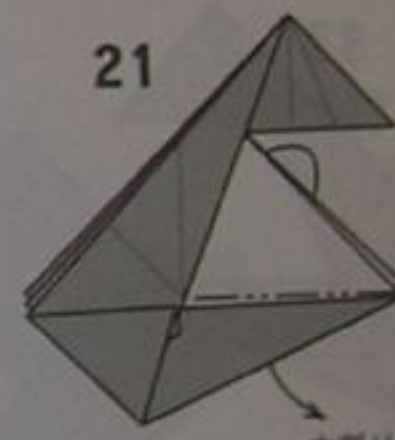
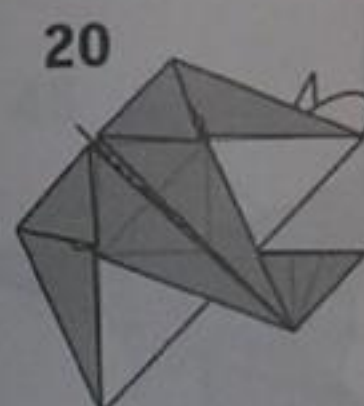
つけた折り筋をつかって
つまみ折り



12 でつけた折り筋で折る



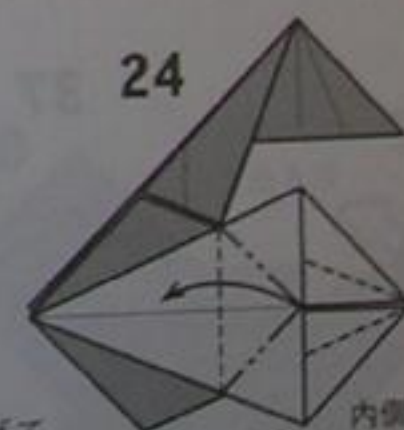
中割り折りのような
沈め折りのような折り方



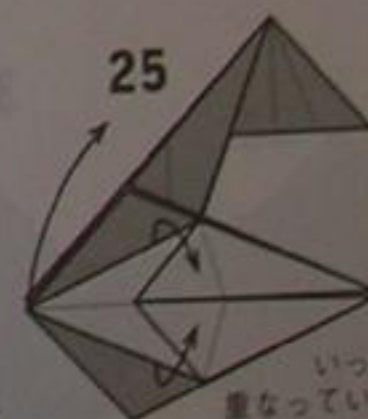
中割り折り



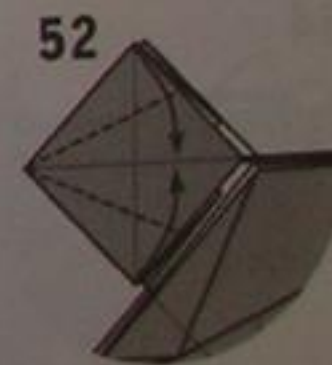
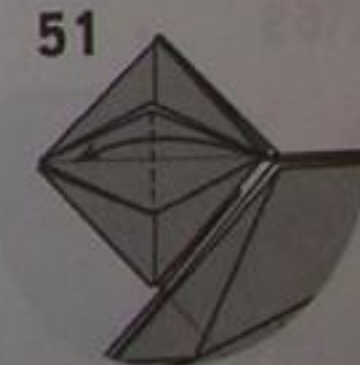
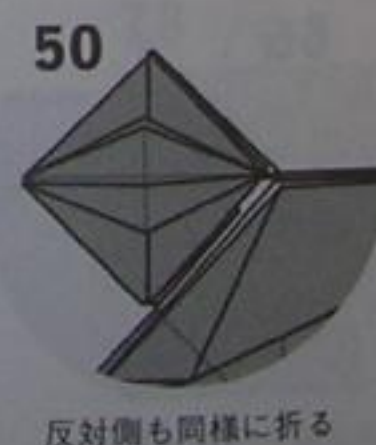
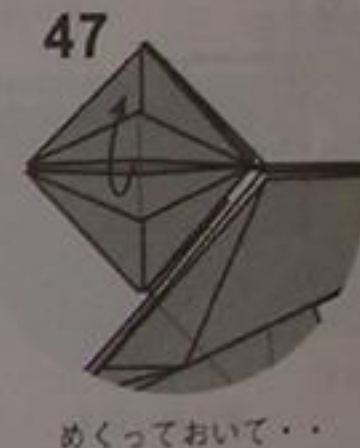
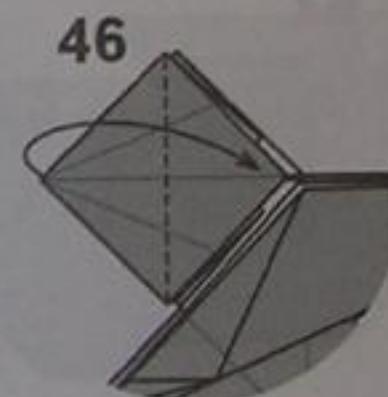
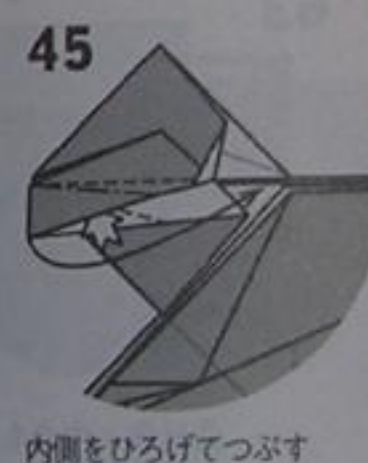
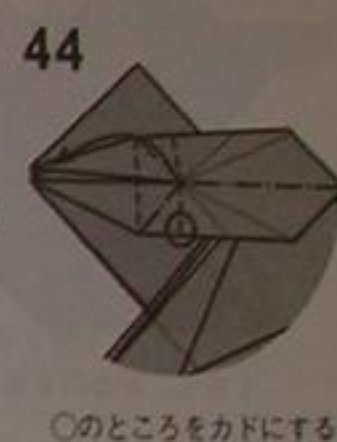
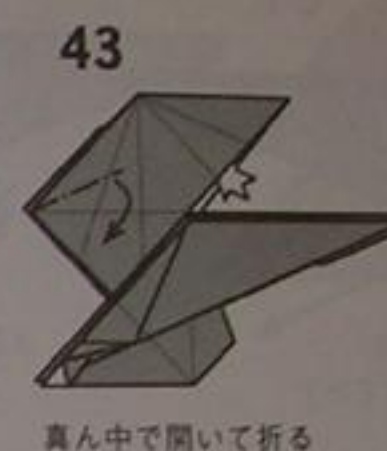
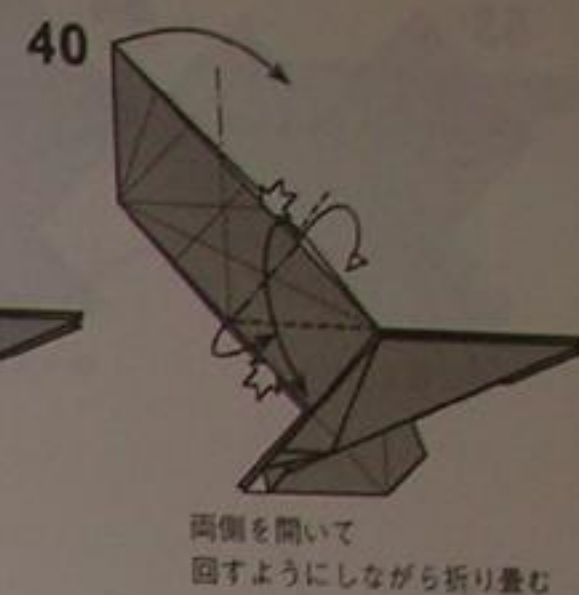
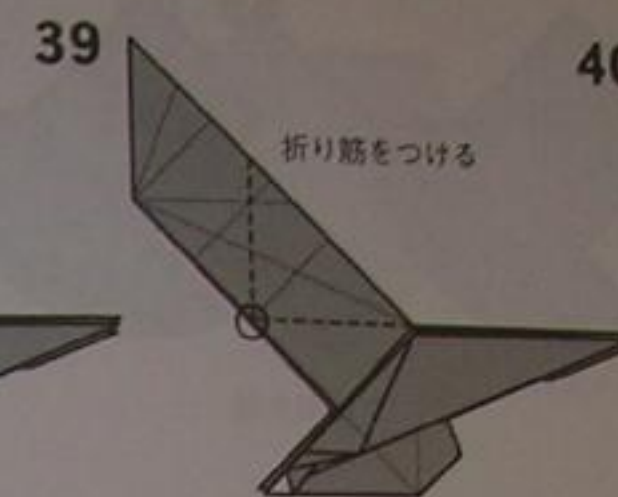
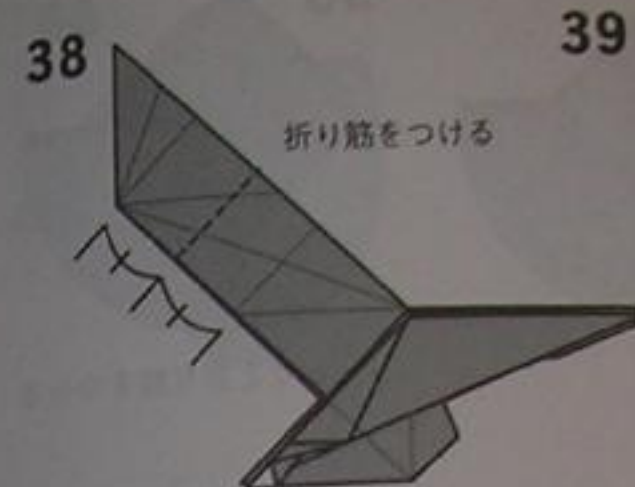
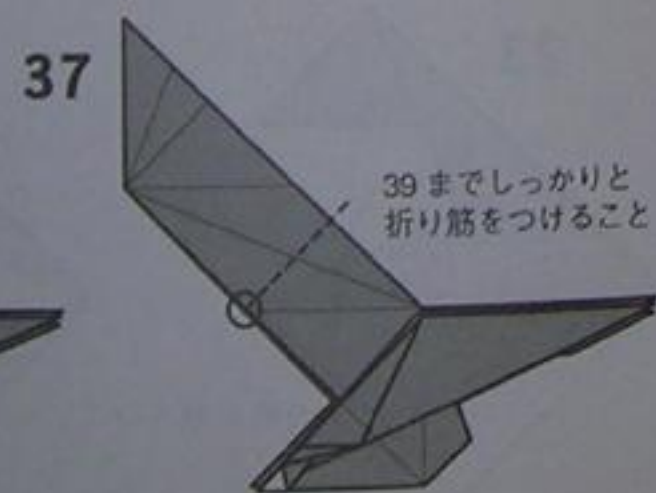
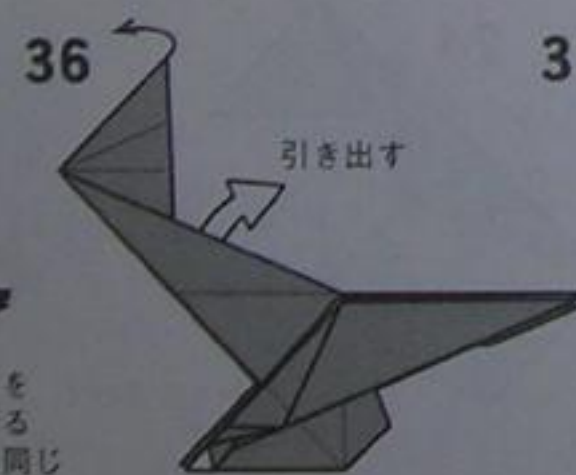
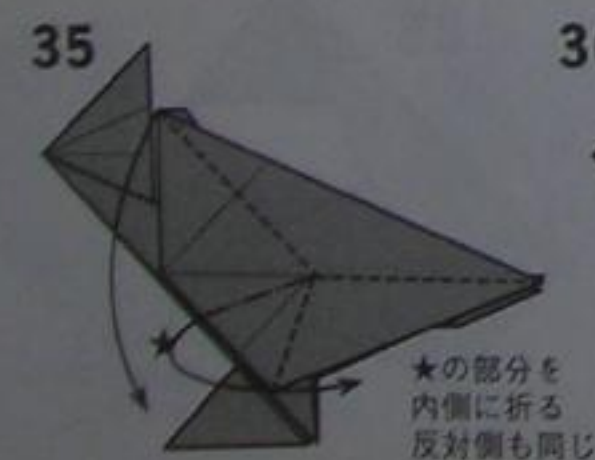
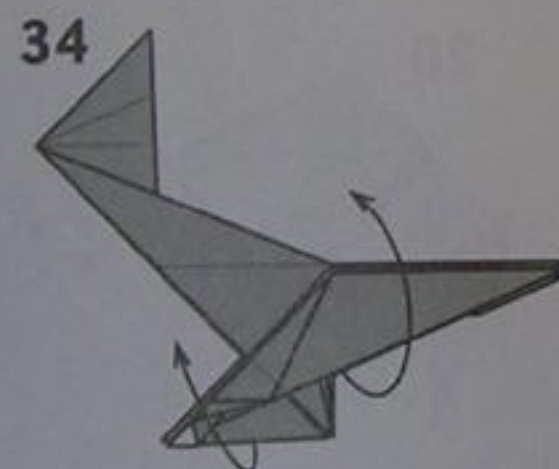
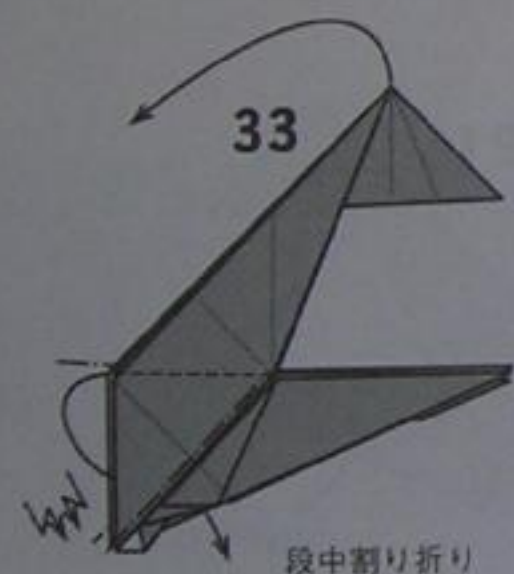
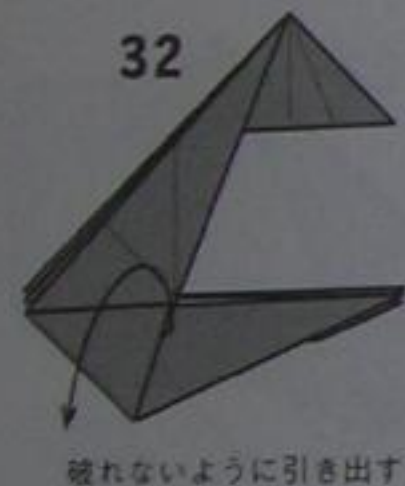
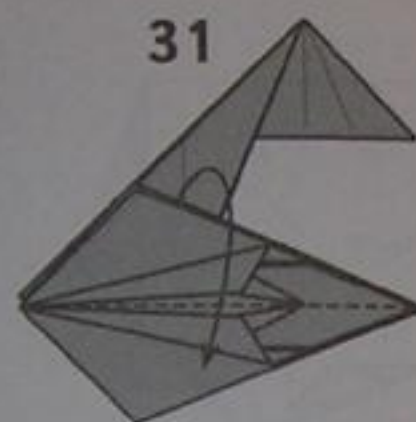
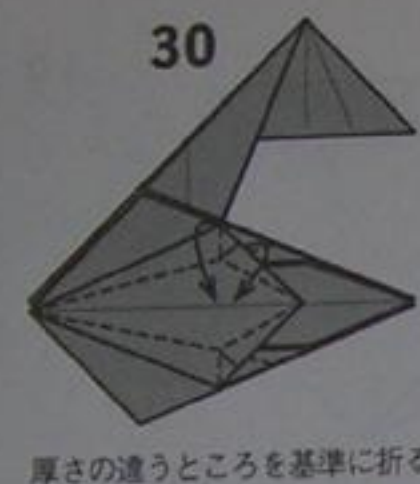
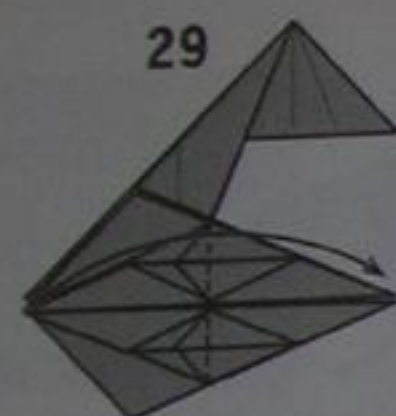
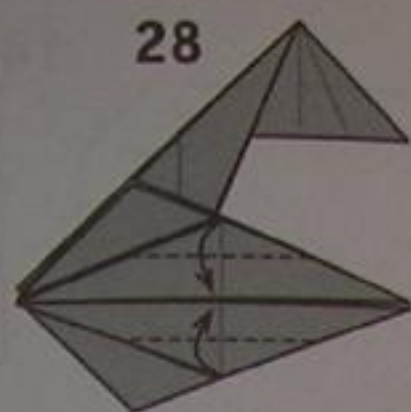
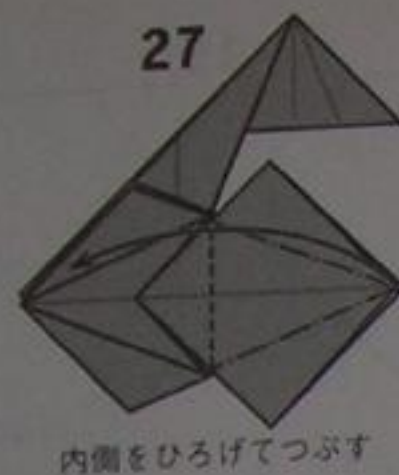
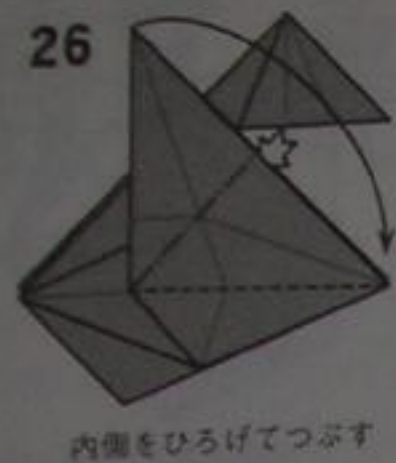
内側をひろげて
つぶす

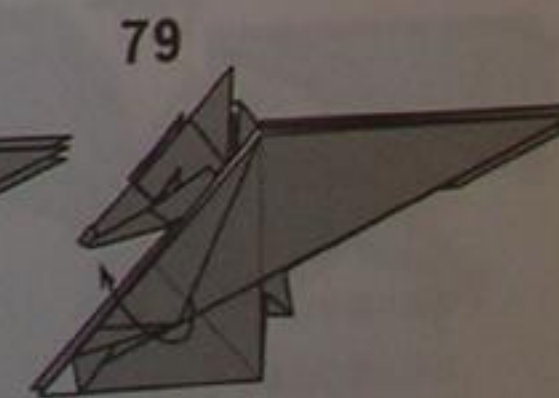
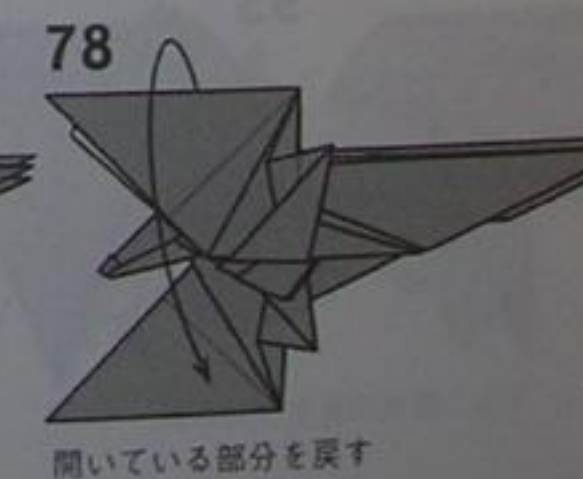
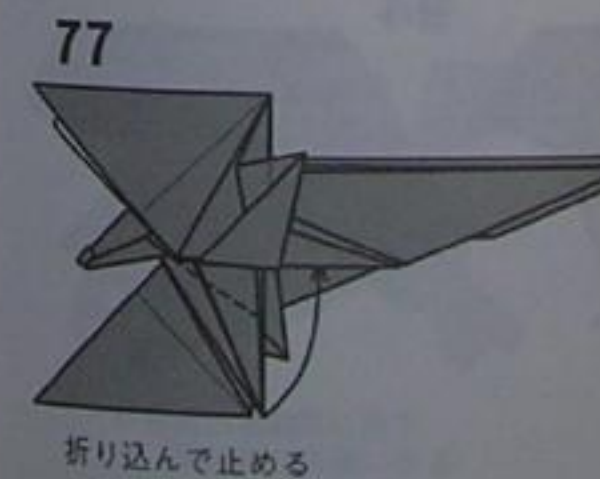
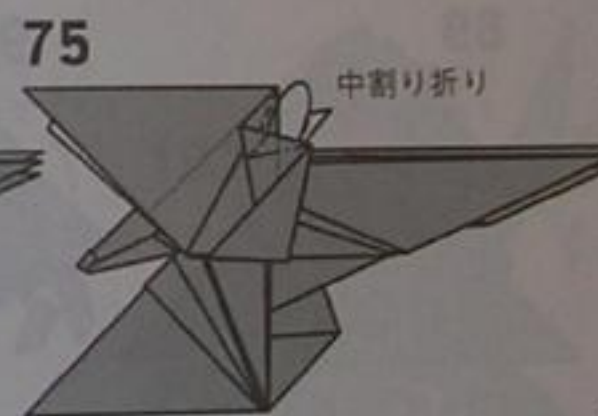
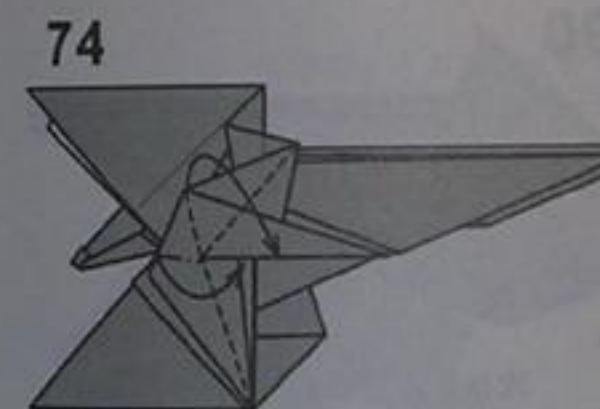
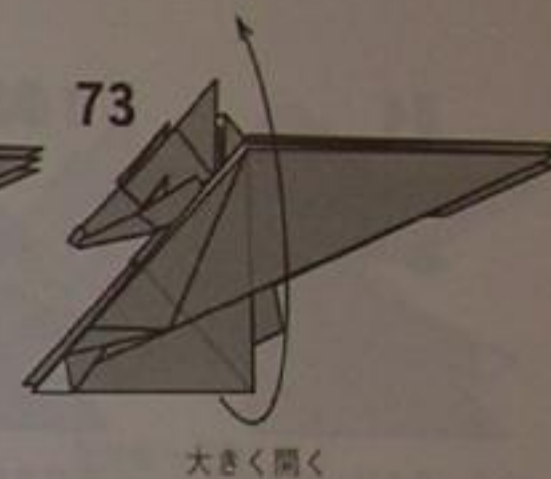
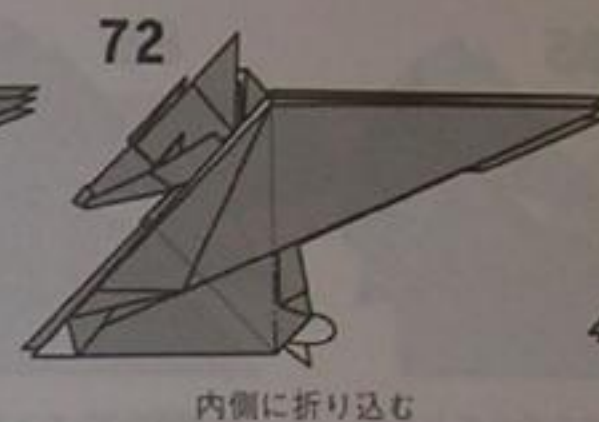
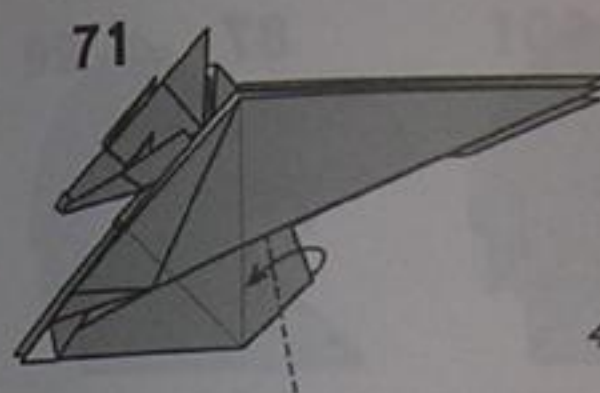
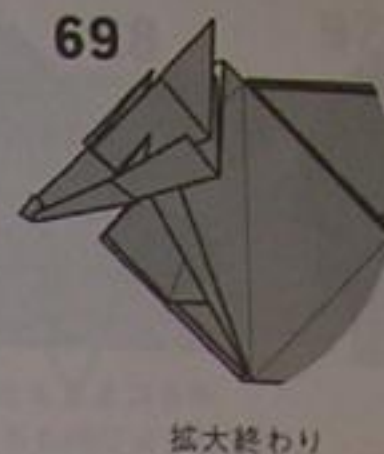
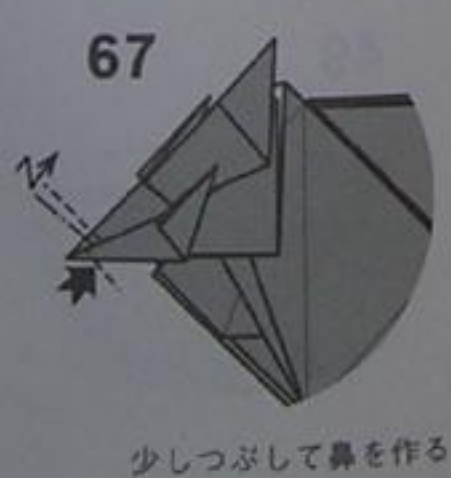
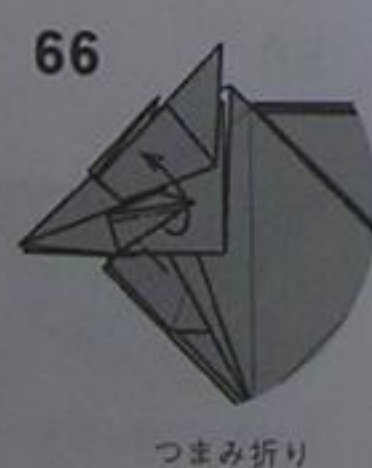
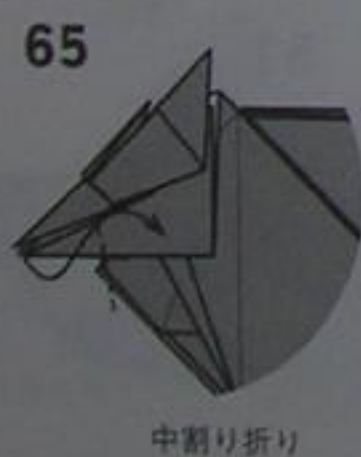
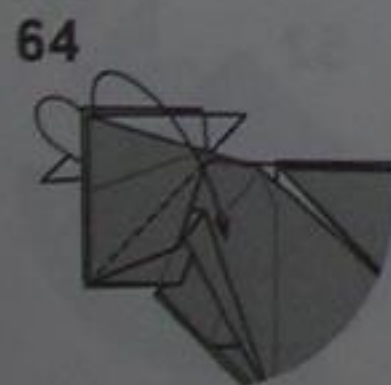
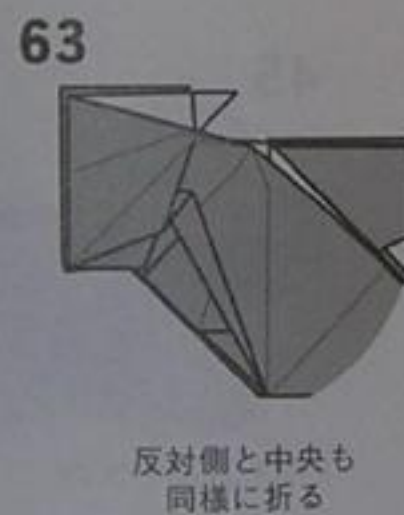
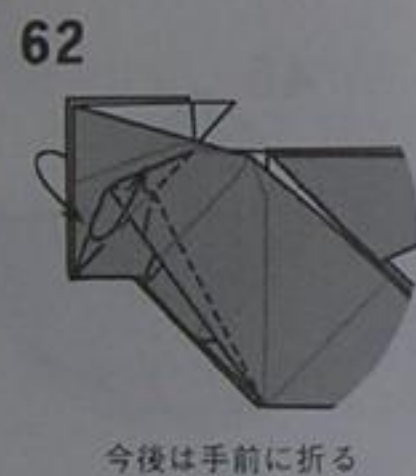
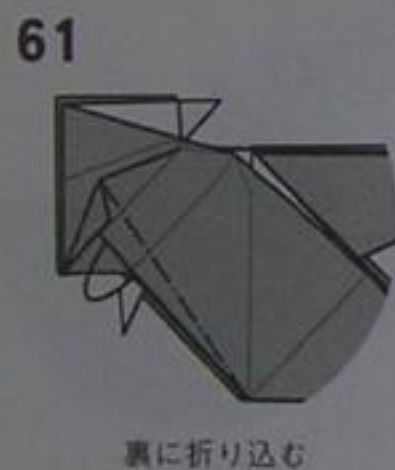
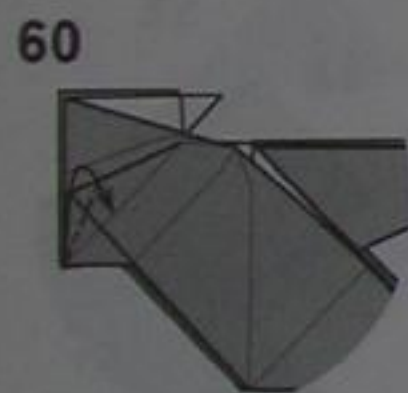
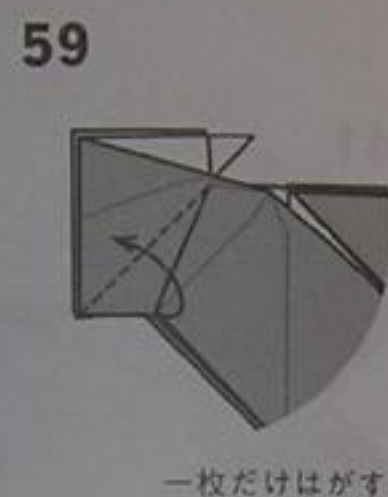
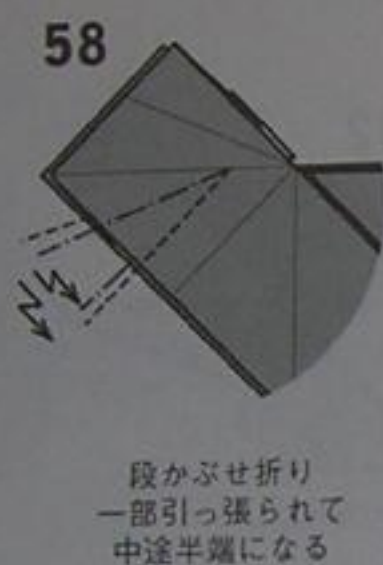
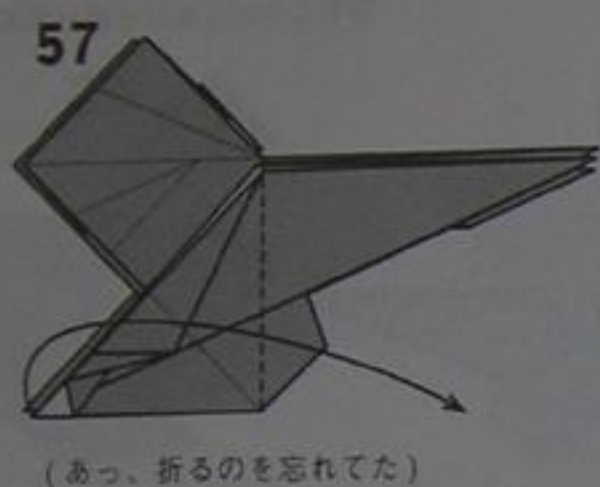
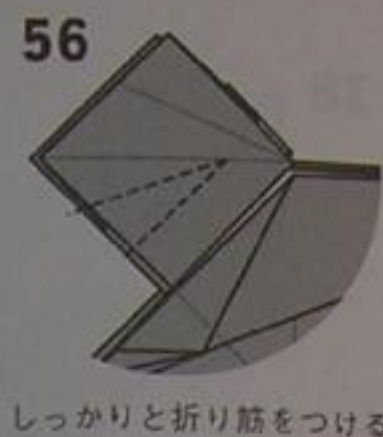
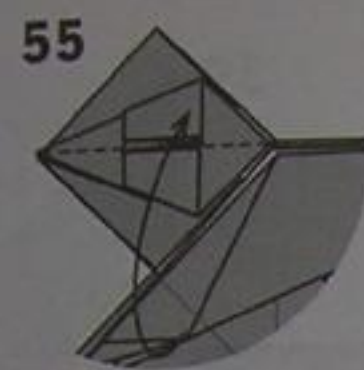
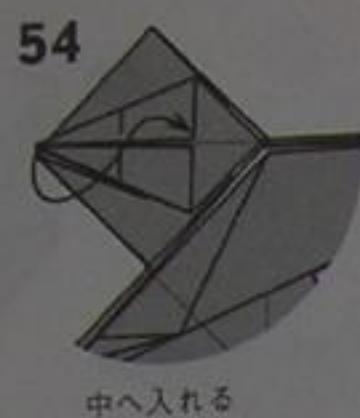
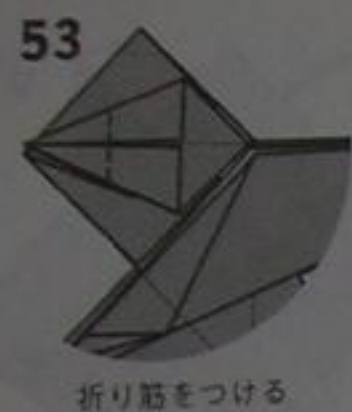


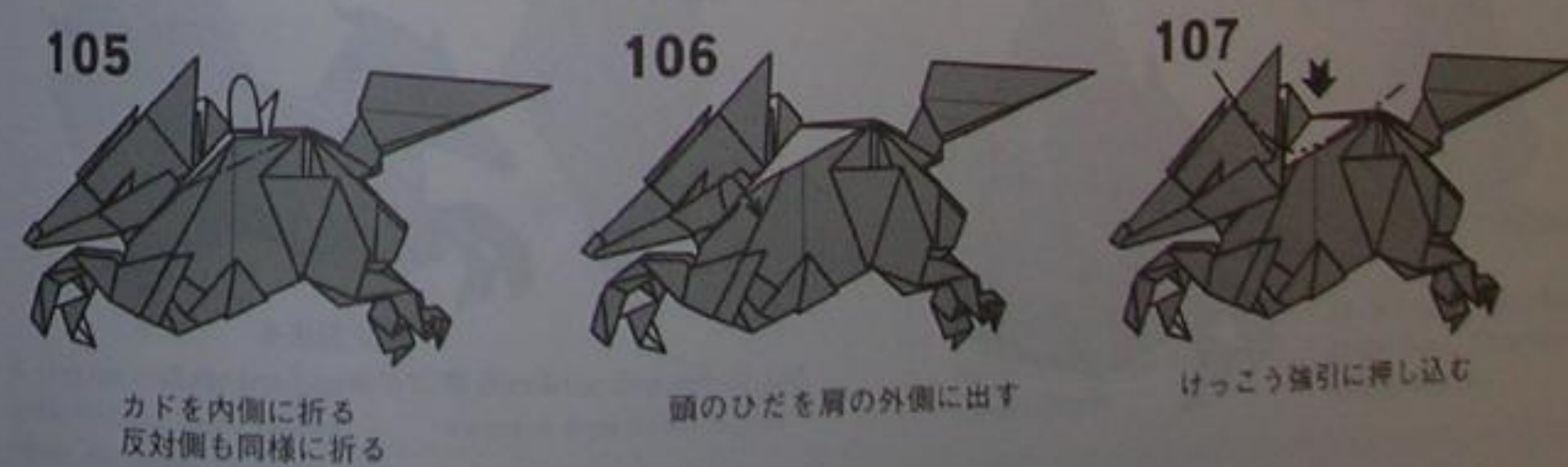
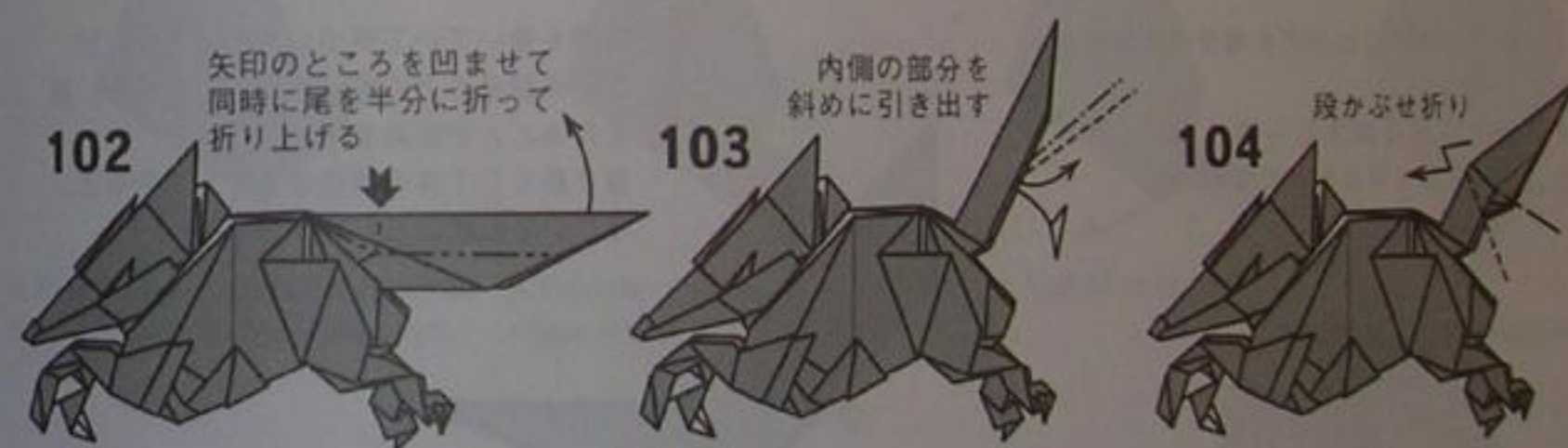
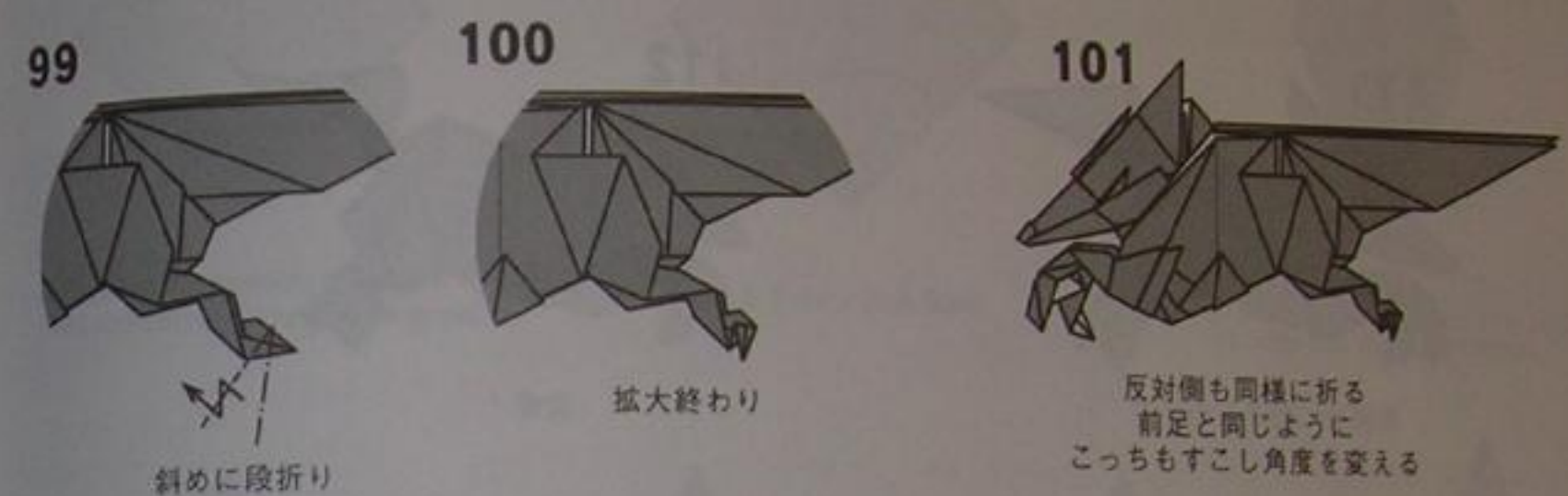
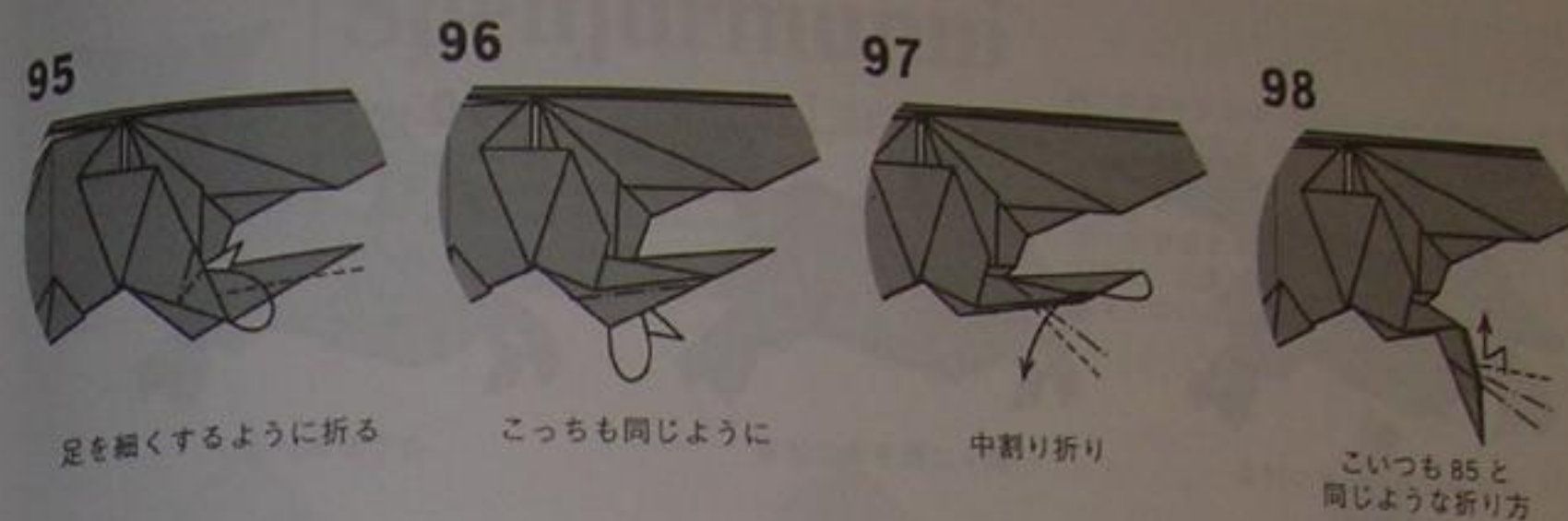
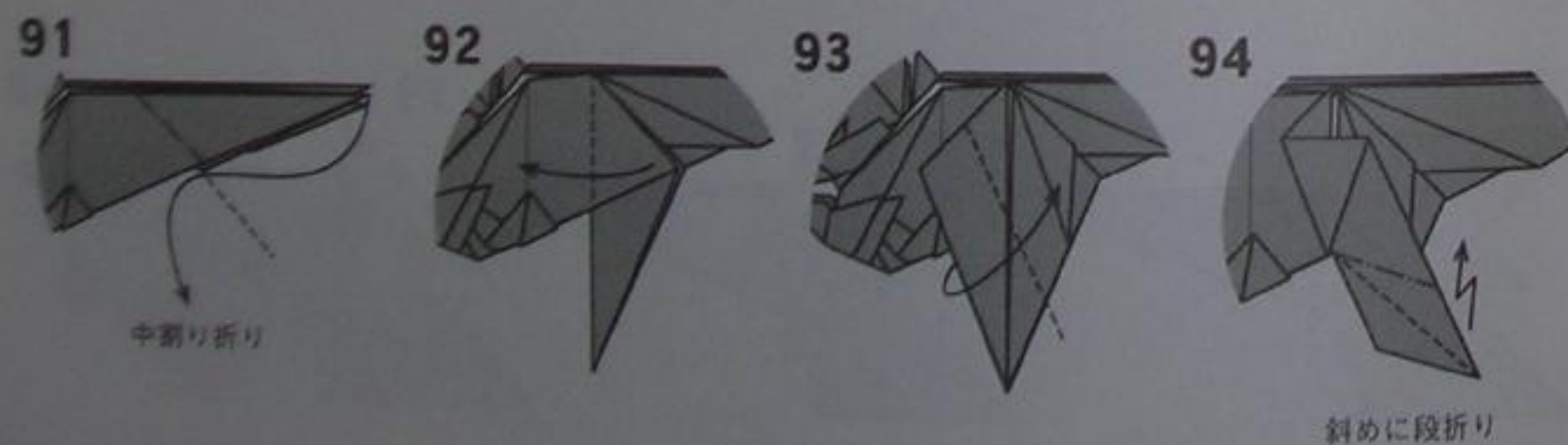
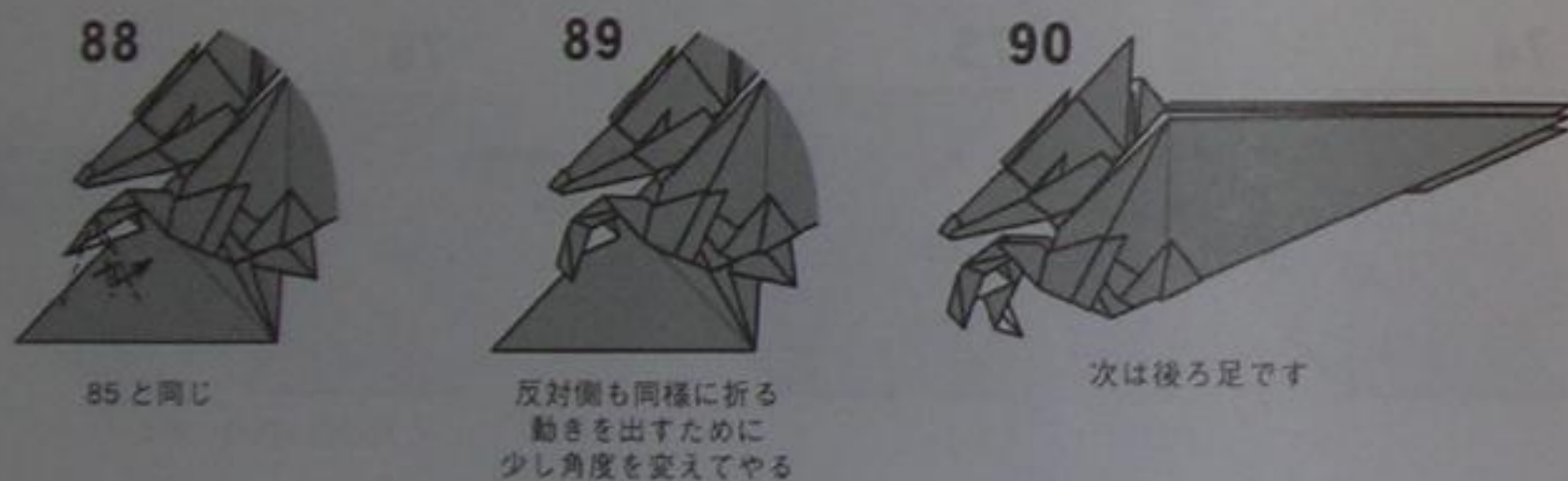
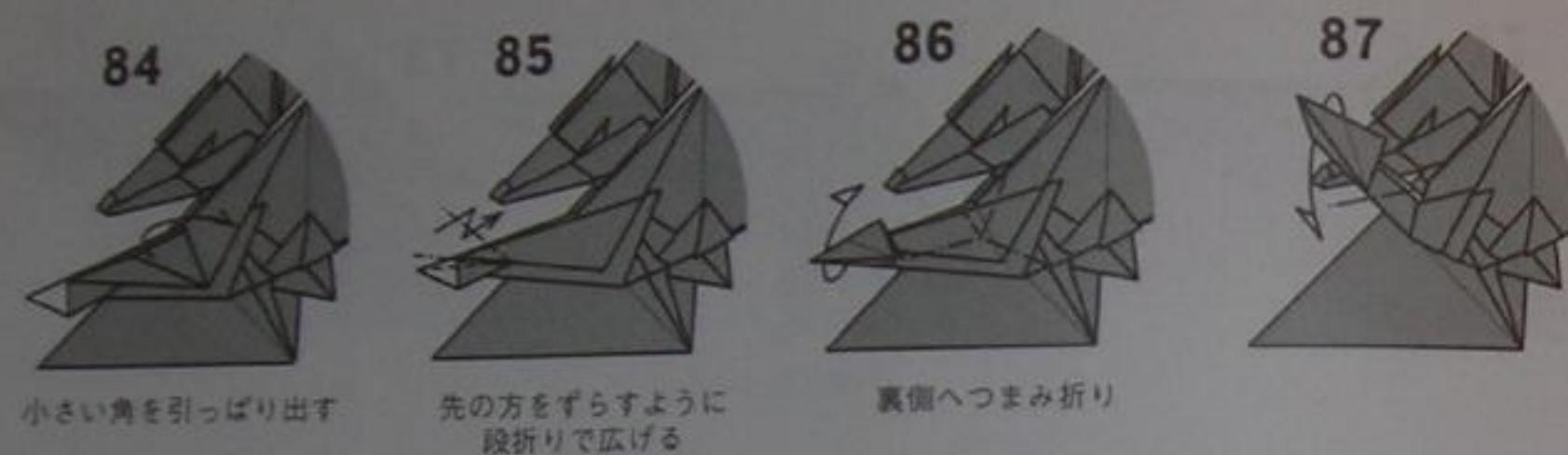
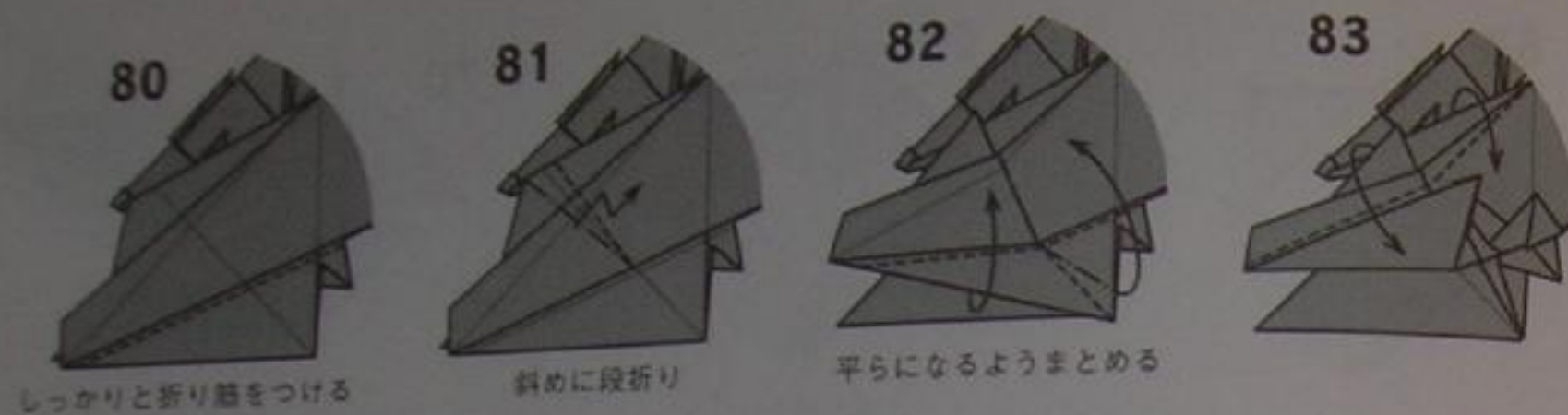
内側をひろげて
つぶす



いったん開き
重なっている部分を
はがしてまとめる







108



おなかにも丸みをつける

109



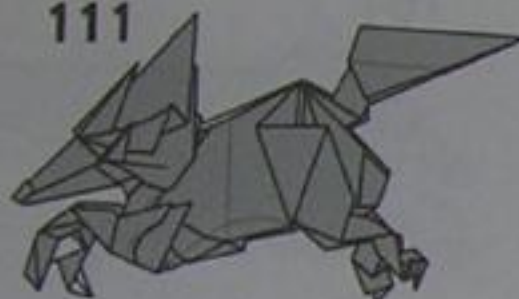
頭?に動きをつける

110



たてがみにも・・・

111



各部分に動きをつけて・・・

112



完成?

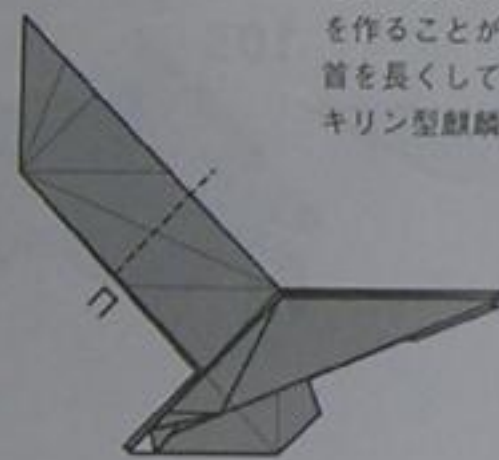
おまけ1

よく見ると頭部にはひだを増やせる余裕があります。そこで中にある紙を引っ張りだしてやると、ひだを増やすことができます。



おまけ2

折図を書いていて気づいたのですが、37で折る部分を上の方にずらしてやると、首を作ることができます。首を長くして角の調整などをしてやると、キリン型麒麟になります。(・・・)



ここを少し開けておくと・・・



首が出来る
こっちの方がカッコいいかも・・・

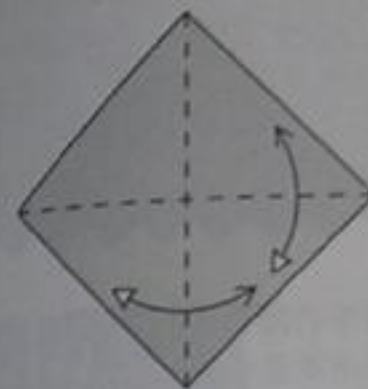


Spenjurmunni

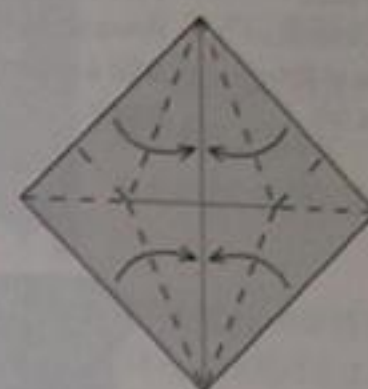
Designed by Robert J. Lang

Copyright ©1999. All Rights Reserved.
Any resemblance between this origami design and a character from any irritating-sound-producing videogame, overpriced trading card, or mind-numbing, poorly-animated TV show, is purely coincidental.

■このタイトルは「Spend Your Money」のもじりで、「お金がかかってたいへんだ」というような意味が込められています。ラングさんの息子さんが、この作品と似ているキャラクターが登場するゲームやアニメに夢中で、父親としては頭を悩めているそうです。訳すとすれば、「カネウイネズミ」かな?



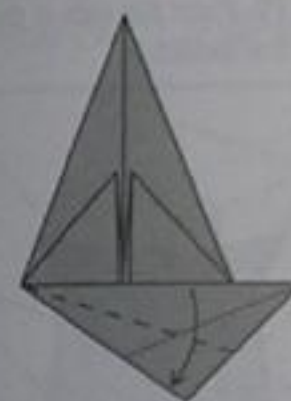
1. Begin with a square, white side up. Fold and unfold along both diagonals.



2. Fold a Fish Base.



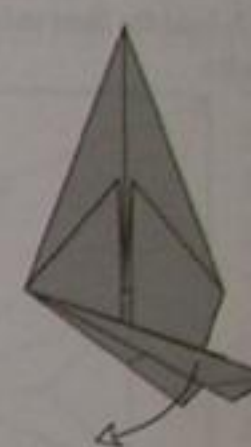
3. Fold the bottom point up so that its edge hits the right corner.



4. Fold the horizontal edge down so that it aligns with the folded edge.



5. Fold the edge back up so that it aligns with a folded edge.



6. Unfold to step 3.



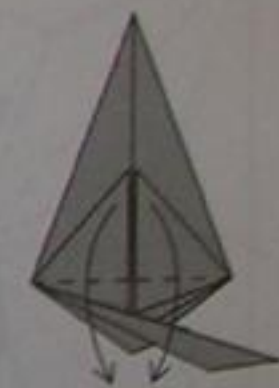
7. Repeat steps 3-6 on the right.



8. Use the creases you just made to form three nested rabbit ear folds.



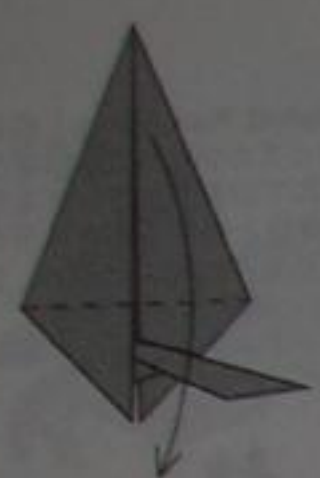
9. Pinch the flap in half and swing it over to the right.



10. Fold the two flaps down and flatten the model firmly.



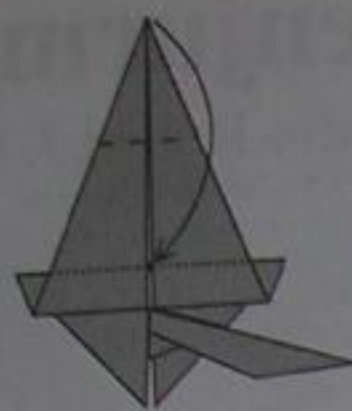
11. Bring the long flap to the front. This flap will be the tail.



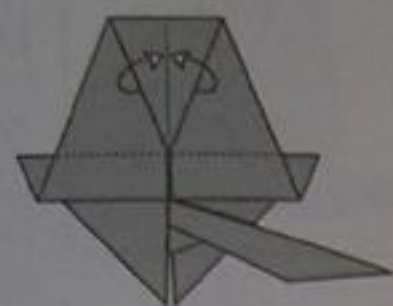
12. Fold the top flap down.



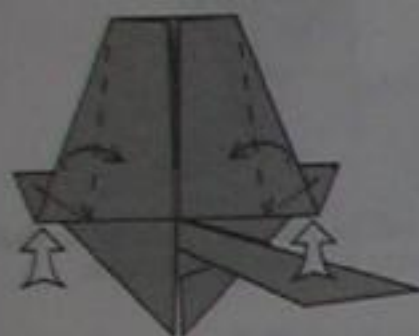
13. Fold the flap back up. Note that the crease hits the centerline at the same point as the tail flap.



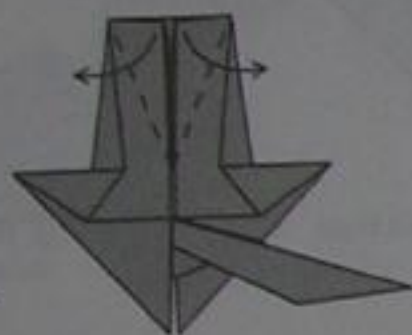
14. Fold the top flap down so that its tip aligns with a hidden horizontal crease.



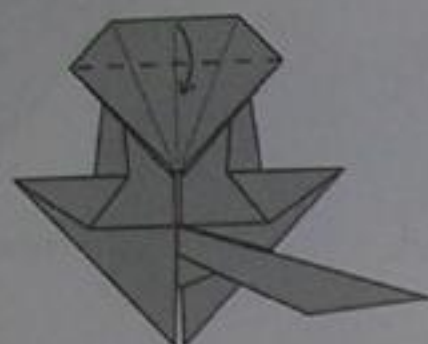
15. Bring the raw edges to the front on both left and right.



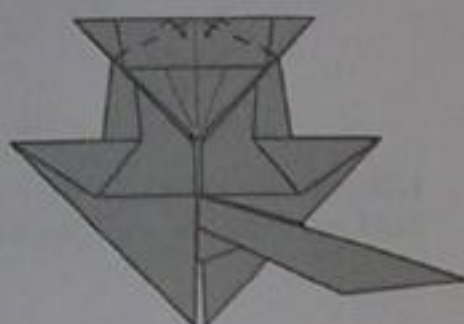
16. Swivel-fold the edges.



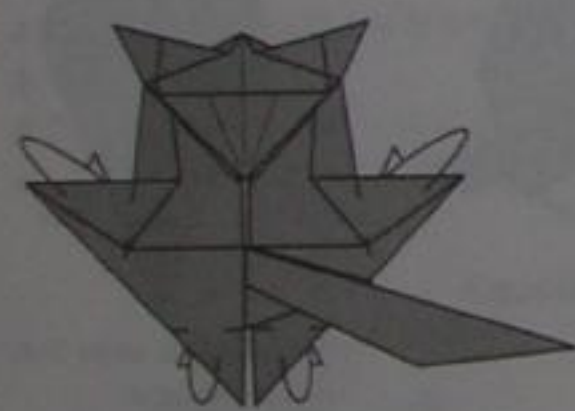
17. Fold the flaps out to the sides.



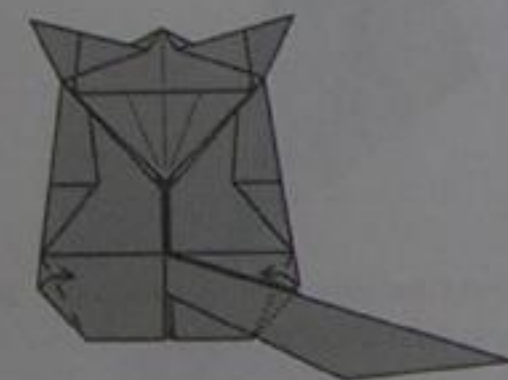
18. Fold the top edge down along a crease that runs from corner to corner.



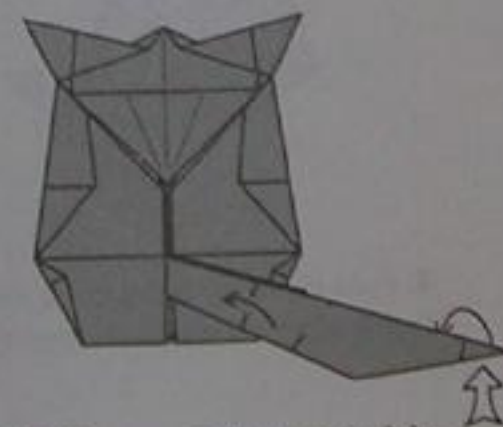
19. Pleat the ears at the top of the model.



20. Mountain-fold four flaps to the rear.



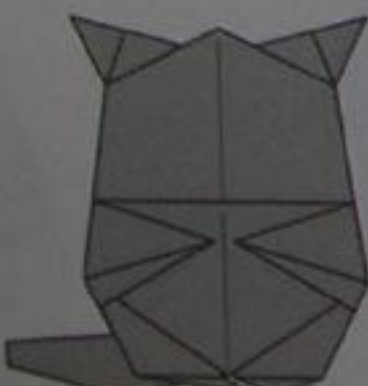
21. Valley-fold the corners.



22. Reverse-fold the tip of the tail. Pleat the tail like a lightning bolt.



23. Turn the model over.



24. Finished model. Color on a face as shown in the next figure.



25. Finished Spenjurmuni, taking a peek at you.



宮島 登さんの

展開図折りに挑戦!

Crease Pattern Challenge

第4回

ペガサスの騎士

Miyajima Noboru

Knight on a Pegasus

宮島 登

マニアに定評のあるこのコーナー。第4回は、鶴の基本形をベースとした独自の「基本形」を編み出してから、本格的な創作ができるようになったという、宮島さんの登場。これから創作を始めたという方には、参考になるかもしれません。

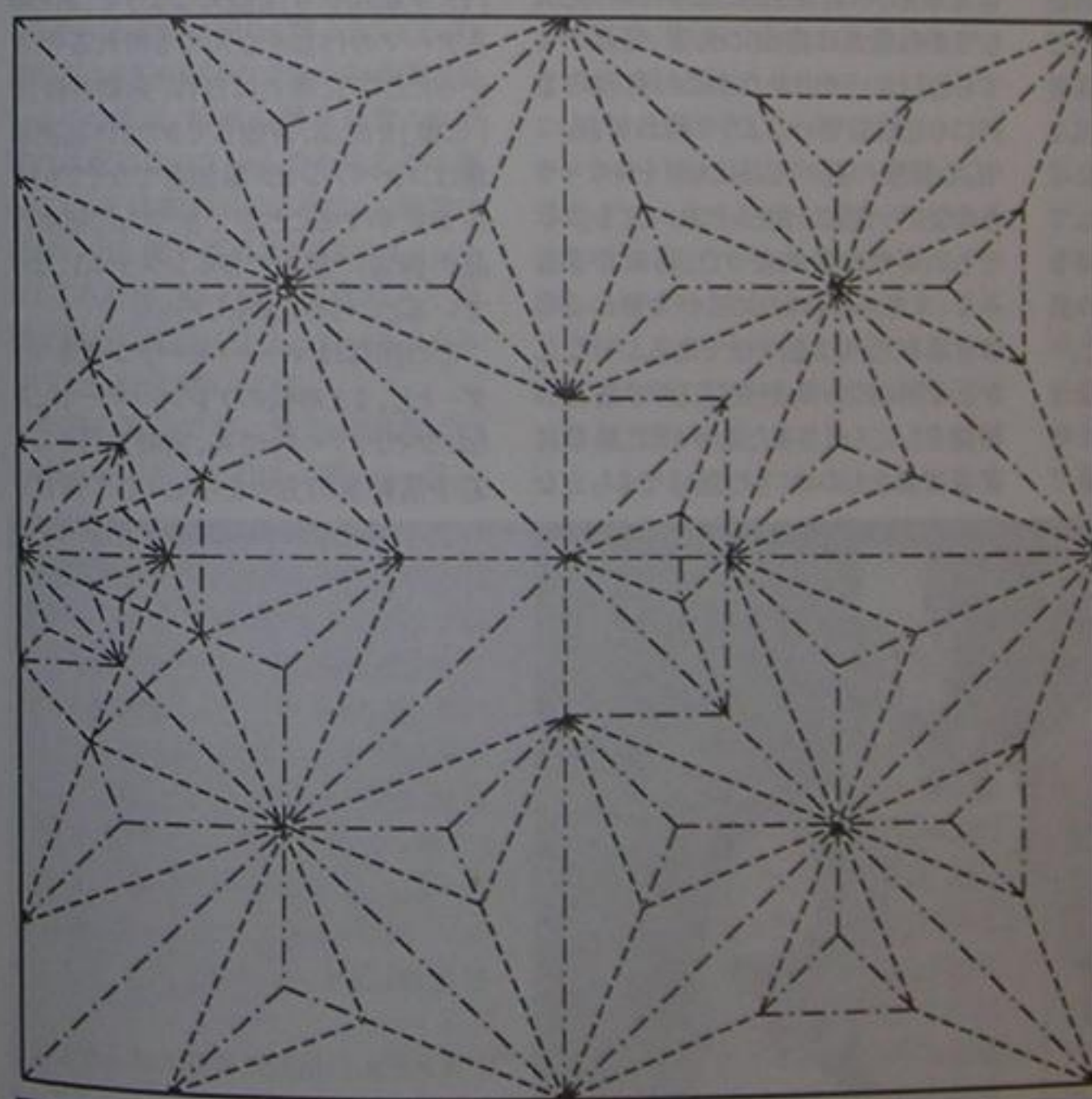
この作品の創作手法は、既存の基本形(一応オリジナル)を対象にあてはめるというオーソドックスなもので、整然とした展開図を見ると「設計のなせるわざか」との錯覚を受けますが、設計の要素は殆どありません。

この作品でわたしが強く感じるのは、

自分の場合は「偶然」との幸福な出会いに恵まれなければ作品は生まれないのだな、ということです。この作品に訪れた「偶然」は、対象に必要とされる「角」と、基本形で折り出された「角」の数が完全に一致しており、また「角」の長さや、出る位置なども対象の要請を満たすものだったという点です。これはほと

く「角」を折り出しているのですから、あまり深く考えずに折ったには出来過ぎの結果で、かなりの強度の「偶然」に恵まれたものといえます。このような「偶然」の要素は、多少設計の真似事をしていても、私の作品の中には必ず含まれています。この作品は極端な例なのですが、「余ったところでこんなものが折り出せた!」などというささやかな偶然にはよく巡り会います。頭の中に完全にイメージが出来ていたとしても、(私の実力では)イメージ通りには出来ないのが折り紙であり、逆に予想もできない素晴らしいものができてしまうのも折り紙です。このような「偶然」に巡り会う瞬間こそ、私にとっての創作の醍醐味なのです。

作品の解説を少々。中心線から左半分が馬、右半分が人になります(馬と人との紙の割当てが同じだから、人の造形の「折り込み」が可能となるのです。わかります?)。4つの角が羽及び腕となり、辺の中心が後脚(馬)及び頭部(馬・人)となり、内部の角が前脚(馬)及び足(人)となります。創作から3年以上経っているにも関わらず、いまだにスマートな折り手順が見つからないので、私はいつも最初にすべての折り線をつけてから畳んでいます。



シアトルコンベンション編

去る8月13日夕方から15日にかけて、アメリカ・シアトルの折り紙団体P.A.P.E.R.(Puget Area Paperfolding Enthusiasts Roundtable)の主催するコンベンション「ORCA (Origami Regional Conference of America)」がワシントン大学のハゲット・ホールに於いて開催された。筆者(北條)は招待者のひとりとして参加し、講習をおこなってきた。

作品をそのまま習うことではなく、折り手を育成するための技術指導を主目的とするという珍しい方針が打ち出されたこのコンベンションには、ジョン・モントロー氏、マイケル・ラフォス氏、フロレンス・テムコ氏、ジョセフ・ウー氏、クリス・バルマー氏など日本でもよく知られた作家たちが講師として参加し、北アメリカ中から集まった約200人の愛好家たちと折り紙三昧の三日間を過ごした。スケジュールは比較的余裕を持って組んであり、講習が終わりきらないときには延長され、早く終わって暇そうにしているひとがいれば誰かが突然講師を買って出たりと、のどかな雰囲気の中でフレキシブルに運営されていた。

ラフォス氏の「紙の裏打ち」「ウェット・フォールディング」のそれぞれのワークショップは午後じゅうぶぬきで

おこなわれた。こうした、作者自身から直接珍しい技術の指導を受けられる教室は、日本での高井弘明氏の古紙染色講習同様、参加者の記憶につよく残るであろう。ウー氏によるかわいらしい曲面造形「Baby Elephant」も大人気。モントロー氏には終始ファンの少年がびったりくっついていて、筆者は自作「人物の基本形」の講習をおこなったが、完成してから各人に自由に改造・発展させてもらうというやりかたがこの会合の方針にも合致していたようで概ね好評。こうした難度の高い作品にも目をキラキラさせながら食欲に食らいついてくる少年たちの姿が印象的だった。将来が楽しみな(末恐ろしい?)少年が大勢いるのは日本もアメリカも同様であるようだ。しかし今回はウー氏が飛び入りで講習の補助をしてくださったおかげで無事に完成できたものの、もし助けてもらえな



■バクスター氏(左)、ラフォス氏(右)と筆者

かったら私の拙い英語力ではどうなっていたことか…。

そのほか、作品のみだったが、ラフォス氏が漉いた味わいのある和紙でロバート・ラング氏が折った複雑昆虫も出品されていた。窓にはバルマー氏の大型布製平織り作品が貼り付けられ、壮麗な透かし模様が目玉を集まっていた。「1ドル紙幣折り」も盛んなようで、あらゆるテーマの作品をなんでも折れるぞ、といったところ。筆者は自作「弥勒菩薩」と「仏像」を出品、寄贈してきた。作品展示場はコンベンション参加者でなくても5ドルで見学することができ、さらに初歩作品の講習に参加できるシステムになっているというのもおもしろい。

この団体はマーク・モーデン氏をリーダーとし、まとめ役のアレン・バリー氏、さらにフィリップ・イーさん、宮崎亞弓さんら若手活動家の方々を中心として運営されている。創立から現時点で約五年。毎月一度会合をひらき、さらに地元の美術館でボランティアの講習会をひらくなど活発な活動をしているようだ。特に今回の滞在期間中、イーさんと宮崎さんには全日程に於いて案内・通訳をしていただき、大変お世話になった。さらに、このとき頂いたORCAコンベンション記念Tシャツは、JOASコンベンションでのオークションに使わせていただいた。重ねて感謝致します。

P.A.P.E.R.の活動に興味のあるかたは、E-mail: marmonk@eskimo.comまで。



■熱心に折り紙の指導をする北條氏

「吉澤 章 創作折り紙展」編

吉澤章氏。いまさら説明するまでもなく、日本の現代折り紙界の先駆者のひとりであり、折り紙を「一生をかけて追究すべき価値のある芸術」として広く世界中に知らしめた人物である。その吉澤氏の米寿を記念した創作折り紙展が、10月6日から18日まで銀座の松屋で開催された。1992年のセビリア万博日本政府館に展示された「日本の四季」ジオラマをはじめとする代表作品約1,000点を見ることができ、大規模な展示会である。

入り口では「昇り龍」「降り龍」、さらに高さ約3メートルの「きりん」が入場者を出迎える。会場は「恐竜」「動物」「海のいきもの」「抽象」などいくつかのテーマに分類され、表情豊かな多数の作品群が展示されていた。「折り紙でこんなものまでつくれるんだねえ、すごいねえ」「本物みたい」「これ、うちの犬にそっくり!!」という感嘆の声があららからほほ切れ間なく聞こえてくる。行列がぎゅうぎゅう詰めでなかなか進まないほどの盛況。折紙の展示会でこれだけの状況になっているのを見るのは筆者にとっては初めてのことだ。入場者は高齢の方と親子連れがほぼ半々といったところだが、時々若い世代の人が単独で熱心に作品に見入っているのを見つけてちょっと嬉しくなる。

今回の展示で特に筆者の印象に残ったのは、「猿」の一体一

体の微妙なポーズ付けと多彩な表情の変化である。こうした、手足など長い突起物と顔をもった自由度の高い人物系作品、さらにその群像に対しては特に、吉澤氏の技術(というよりも、文字通り「魂吹き込み」のようにも感じられる)が存分に発揮されると思う。いくつか違う時期に考案したと思われる作品が混在し、目鼻の曲面的表現があったり下顎がつくられていたり顔の最終加工がさまざまに異なるものたちが一堂に会している。それなのに、この群像としてのバランスは一体なんなのか?一匹一匹がそれぞれに意志を持って個々の生命活動を営み、そして他の個体すべてと干渉しあっているかのような。

さらに、約三十年前に雑誌掲載されたという「般若面」も興味深い作品であった。目から頬、鼻にわたって、顔のほぼ全面がぐらゐり折りと曲面のみによって構成されている。犬歯だけでなく門歯までもが折り出され、さらに人間内面のグロテスクな部分が強調されているかのようなのである。

吉澤作品はそのすべてが、世界中でただひとつしかない「一点物」である。折り工程図を見ると、それほどキャリアのない初心者でも楽しめるように工夫された、簡単そうに見える作品が多い。しかし実際は、最後の完成図に至ってやっと「スタート状態」が示される、という気がする。そこからの発展は、まさに折る人ひとりひとりの感



北條高史
栃木県生まれ。人物作品を中心とした創作活動を行っている。普段は製薬会社研究員として、日夜実験動物と格闘中。

性に任されているのだ。たとえば、吉澤作品に盛り込まれた特筆すべきポイントのひとつに、「用紙にできた不確定なしわをデザインの一要素として使いこなす」ということがある。筆者は、この技術で達成し得た人物を吉澤氏以外にはあまり知らない。極論すれば、「あれだけの印象を内在する作品は吉澤氏本人にしか折れない」。折り手個々人の境界が表現力・印象の強弱として顕在化されてしまうのである。

今回の展示には同時に、エリック・ジョワゼル、ジョナサン・バクスター、デビッド・ブリル、マイケル・ラフォスら各氏の作品も寄せられ、吉澤氏が世界中の多くの折り紙研究家たちにつよく影響を及ぼし、目標となっていることがうかがわれた。

展示はこれ以降、札幌・京都・埼玉を巡回する予定であるとのこと。より多くの人々に、とくに若い作家の方々に、この壮大な世界を至近距離で体験してほしい。そして、作品にあらわれる「折り手特有のタッチ」の根源ということに思いを馳せてほしいと思う。

Akira Yoshizawa ORIGAMI



吉澤 章
創作折り紙展

■今回の展示作品のカタログ。曲線愛好家必見!

巡回日程

2000年1月27日(木)~2月8日(火)
札幌・丸井今井
2000年4月27日(木)~5月9日(火)
京都・高島屋
2000年4月27日(木)~5月9日(火)
埼玉・川越丸広

Information つまみおり



■「これがおりがみ？」とBrill氏の作品にびっくりする子供達

David Brill氏ら国際的折紙作家来日

去る10月10日、吉澤章氏のエキシビジョンに招待作家として招かれたDavid Brill氏をはじめとする5人の折紙作家達が、忙しいスケジュールの合間を縫って、おりがみはうすを訪れた。同じく招待作家であったEric Joisel氏(本誌Origami Photo Gallery参照)だけは飛行機の都合で残念ながら立ち寄る事はできなかったが、充実した交流の場を設けることができた。

招待作家と

■はうすを訪れたのは、David Brill氏(イギリス)、Jonathan Baxter氏(アメリカ)、Michael LaFosse氏(同)、Richard Alexander氏(同)、Carlos Pomaron氏(スペイン)の5人。Jonathan Baxter氏以外は、はうすを訪れるのは初めてで、展示されている作品のひとつひとつに魅入っていた。特に若手作家の作品群には大いに関心を寄せていて、様々な質問を山口氏に投げかけていた。また、過去の折紙学会(当時折紙探偵団)が出演した番組をビデオでみるなど、楽しいひとときを過ごした。

■その後、David Brill氏はさらに約1週間、日本に滞在したが、4氏はそのまま帰国の途に着いた。



■熱心に話し合うBrill氏と西川氏

■10月16日、帰国を前にBrill氏は再びおりがみはうすを訪れ、多数の日本折紙学会のメンバーと交流を深めた。

■丁度58号の原稿を編集部へ持参した前川氏は、「折紙散歩」の英文校正をすっかり依頼。「今回の英文は間違いない」と自信をみせた。日本折紙学会代表である西川氏は、BOS(British Origami Society)のまとめ役であるBrill氏に運営の状況等について熱心に質問していた。こちらの結果については、今後の誌面に紹介されていくことと思われる。

■その日の夕食は、Brill氏の希望から焼鳥屋という、超庶民的な日本の味を堪能。焼鳥をつまみつつ、羽鳥(公)氏と折紙の作品を何種類も折って交換し合うなど、折紙交流が繰り広げられた。

■翌17日には西川氏の案内で「紙の博物館」などを見学。以前にも来たことがあるといったが、新装となった「紙の博物館」に感激していた。夜には西川宅で山口氏の手料理による夕食会が開かれた。

小谷村で折紙

■10月11日～15日までのBrill氏は、

「日本の秋の風景を描きたい」と、休養を兼ねて長野県小谷村に滞在。その滞在先で近くの小学校に招かれ、1時間の講義を頼まれた。

■英語が分からないだけでなく、折紙さえもあまり折ったことがない小学一年生を相手に、Brill氏は「Be careful(慎重に)」と繰り返しながら、一工程ずつ丁寧に教えていく。子供達は言葉は分からなくても、Brill氏の笑顔にひきつけられるように折っていった。

■こういった身近な場を利用した交流は、「日本人対外国人」という層を取り除いて、お互いにより近づき合うことができる。この積み重ねが今後の折紙の発展に繋がっていくと思われる。



■折り上がったとたん、立ち上がってそれぞれの飛行機を飛ばした子供達

◆「紙の不思議－おりがみ展」＝今度は青森県浪岡町で＝

東北地方では初めての大規模な折紙展が12月11日から2000年1月7日まで青森県浪岡町で「紙の不思議－おりがみ展」として開催される。展示される折紙の作品は「おりがみはうす」の新旧のコレクションが主で構成され、作者も忘れていたような作品もあったりして興味深い折紙展となりそうだ。

今回

の折紙展はある意味ではとても興味深い展覧会である。特に折紙愛好家には見逃せない折紙展となりそうだ。というのも、折紙探偵団が歩んできた10年の間におりがみはうすに寄せられた「おりがみはうすコレクション」を中心に展示することになったからだ。

ここ10年の間、お互いを刺激しあった結果、様変わりしたコンプレックス折

紙の世界。10年間の若手折紙作家の折紙史がみられそうである。

また、11日のオープニングには「龍」の巨大折紙製作が公開される。さらに記念講演として講師、西川誠司氏(JOAS代表)と前川淳氏による公開対談などがある。そして、12月25、26日にはワークショップで、北條高史氏、山口真氏を中心とした折紙教室も開かれる。

■「紙の不思議－おりがみ展」

1999年12月11日(土)～2000年1月7日(金)

会場＝浪岡町中世の館／青森県南津軽郡浪岡町大字浪岡字岡田43

入場料＝大人300円高校生以下200円

開館＝午前9時～午後5時まで

毎週月曜日休館

休館日＝12月30日～1月1日(1月2日、3日は通常通り)

主催＝文化庁・青森県教育委員会・浪岡町教育委員会・浪岡町中世の館・折紙体験実行委員会

後援＝日本折紙学会・三菱製紙(株)・八戸工業

◆龍野市歴史文化資料館「～折る～折紙の歴史」展レポート

龍野

市は、姫路市から約30kmほど岡山よりにある山間の小都市である。姫新線の本龍野駅から、大きな醤油工場を右に見ながら橋を渡り、20分位歩くと城跡へ続く上り坂にぶつかる。龍野市立歴史資料館は、その小山の頂上にある。資料館は真っ白な壁の上品な造りで、秋の山あいには溶け込むように建っていた。

展示物で印象深かったのは森脇家旧蔵の資料(高木智氏蔵)であった。そ

の量と昨日折られたかと思える保存状態、とにかく圧巻である。展示場内では、現代の折紙作家の昆虫や恐竜も入り口付近に並べられ、コントラストというより歴史の連続性を印象づけられた。

今回の、折紙関係歴史資料の集合はこれもまた歴史的な1ページと感じられた。資料の詳しい内容については、豪華な図録が資料展開催にあわせて出版されており、期間中に足を運ばなかった人も是非一読をお薦めする。



USA発 おりがみ事情

報告＝田尻敦士

「折紙」という言葉がいまや国際語であることは多くの人が認めるどころです。数多くの著名な海外作家が存在することも事実です。では実際に海外で「折紙」はどのような形で浸透しているのでしょうか。ここニューヨークを例に海外の折紙事情を紹介していこうと思います。

●折紙教室にみる文化の違い

Origami USAは様々なイベントが行われる際に、一般の人を対象にした折紙教室を開いています。こういった教室には生まれて初めて折紙に触れる、という人達が年齢に関係なく訪れます。まず「カドとカドを合わせて三角

に折って下さい」と説明してもしっかりカドを合わせる人はまれです。多くの人がビックリするような形に折って「次は？」と聞いています。個人個人ズレに対する許容範囲が違うのが非常に面白いところなのですが、普段「折紙」とはカドや線を合わせるもの」と考えているのも一度は経験した事だからだ、というのが良くわかる光景でした。



■イベントでの野外折紙教室。ここで生まれて初めて折紙に触れる人も

●Origami Party

こちらには「オリガミホームパーティー」という日本ではちょっとお目に掛かれないものが存在します。折紙作家であるMark Kennedy氏の自宅で開かれたパーティーには20人程の老若男女が集まりました。ここでは誰が先生という感じではなく、それぞれお気に入りの作品をその場の雰囲気の中で教え合うという感じです。あちらでは名刺を使ったユニット作品を、こちらでは複雑な昆虫の作品をといった感じで3～4人が集まると自然に紙を折り始めているのです。Kennedy氏はこの日のために大量の折り図や紙を用意して、皆が楽しく過ごせるように夫人と共に気を配っていました。元々その国にあった文化と折紙が混ざり合った良い例ではないでしょうか。

◆「日本折紙学会関西友の会」結成

「とりあえず集まってみませんか?」という呼びかけに23名が京都の長岡京市に集まりました。集まったメンバーは15歳から68歳まで幅広い年齢層でしたが、「折紙好き」という点だけで初めて会った人たちが話し合っている姿は不思議なものでした。(まあそれが折紙の魅力でもあるのでしょうか)今回は特に3連休の初日ということで東京から西川さん、堀さん、小笹さんがかけつけて会を盛り上げてくれました。今回の折紙講習は世浪さんによる「びんびんウサギ」と「アトラスオオカブト」です。講師の手馴れた教え方のおかげで短時間で無事完成にこぎつけました。

講習のあとは宴会とあわただしいスケジュールでしたが、皆さんの熱気を感じていると関西でのコンベンションも夢では

ないなという手ごたえを感じました。今後6ヶ月に1回の割合で例会と講習会を続けていきます。将来のコンベンション開催に向け関西での活動を定着させていきましょう。

次回 関西友の会例会のお知らせ

日時:12月19日(日)13:00~17:00
場所:長岡京市産業文化会館
(京都府長岡京市岡田3-10-1)
費用:500円(会場費など)
申込:特に無し。当日参加OK
1部:折紙講習
講師/橋高美保子さん(各自15cmサイズの折紙を持参下さい)
2部:関西友の会の運営について
3部:懇親会(費用5000円)
17:00から場所を変えて行います

◆折紙学会忘年会・例会のお知らせ

今年になって、講習会、研究会が充実してきたため、最近では席を確保するのが難しくなるほど盛況な例会。11月は山梨雅弘氏が講師を担当。このお知らせが間に合えばいいのですが。

また、12月は例会がありません。ご注意ください。代わりに忘年会があります。

忘年会

日時=1999年12月18日(土)午後6時~
参加費=5,000円、中学生以下4,000円
会場=文京区民センターC-3
申込方法=12月10日までに日本折紙学会事務局までご連絡ください。
TEL=03-5684-6080(6時まで/日・祝休)
■毎年恒例の折紙探偵団の忘年会。

ゲームあり、クイズあり(?)の楽しいひとときをご一緒しませんか。どなたでも参加できます。

■11月の例会

日時=1999年11月27日(土)
講習会=午後2時から
講師=山梨雅弘
研究会=午後4時から

会場=文京区民センター

■2000年1月の例会

日時=2000年1月29日(土)
講習会=午後2時から
講師=未定
研究会=午後4時から
会場=文京区民センター

◆折鶴の頭

和紙の里今立で見つけた人形なのですが、なんと折鶴の頭部が折られていません。前号のこの欄で話題になった「折鶴の頭を折ってはいけない」という「迷信」の影響でしょうか。この噂に関する情報を求めます。(情報提供/前川 淳)



■高さ6センチほどの小さな人形頭部を折る瞬間の少女の緊張を表しているのだろうか。

◆おたより大募集

折紙探偵団では、みなさんからの便りをお待ちしております。求む、譲る、御意見御感想、前川さんの折紙散歩へのネタ提供、などなど、あなたのまわりの折紙情報を寄せて下さい。

宛先
113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
ギャラリー・おりがみはうす内
折紙探偵団編集部
E-mail
webman@origami.gr.jp



折紙探偵団

1999年11月25日発行
第10巻4号通巻58号
発行所/日本折紙学会
〒113-0001
東京都文京区白山1-33-8-216
Phone / FAX 03-5684-6080
発行人/西川誠司
編集人/山口 真
編集スタッフ/田尻敦士、松浦英子、濱田隆幸
折紙制作・デザイン/おりがみはうす
●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

定価 500 円

◆新刊&新商品案内◆

第5回折紙探偵団コンベンション折り図集と雑誌折紙探偵団のファイルができました。商品の取り扱いは、おりがみはうすで行っております。通信販売でお求めの場合は、下記(おりがみはうす)までお願いします。



第5回 折紙探偵団 コンベンション折り図集

・B-5判 256ページ

神谷哲史氏の「バハムート」、川村みゆき氏の「ツイスター」、小笹一氏の「キングギドラ」、宮崎 登氏の「死神」、一生基金招待者Derudas氏の「コブラ」等多数収録。

定価2,000円(税込)

送料420円(梱包込)



折紙探偵団ファイル

・変形B-5判
・箔押しタイトルロゴ入

雑誌「折紙探偵団」を一年分(6冊)収録できるファイルです。半透明のプラスチック製で、裏表紙と表紙に「折紙探偵団」のロゴが箔押しで入っています。

定価750円(税込)

送料250円(梱包込)

申し込み方法

ご希望の商品名を明記し、送料を含む金額を郵便振替又は現金書留でお送り下さい。口座番号及び宛先はおりがみはうすです。お間違えのないようお願い致します。

I♥ORIGAMI ーおりがみはうす ガレージブックスー

おすすめ!

折り紙色紙百選 田中具子・著 山口 真・編 女性に大人気!色紙折り紙のバイブル。120ページ/カラー口絵8ページ/定価2,500円(税込)送料390円(梱包込)

面~The Mask~ 山口 真・編 作者がまだユニット折り紙に出会う前の情熱の作品集。B5判/120ページ/全27作品カラー写真紹介/定価3,300円(税込)送料460円(梱包込)

好評発売中

一生 スーパーコンプレックス

折り紙 一生 著
B-5判200ページ カラー口絵8ページ
定価2,900円(税込)送料460円(梱包込)

ティラノサウルス全身骨格折り紙

B-5判 76ページ 斎藤一生 著
定価1,545円(税込)送料390円(梱包込)

第5回 折紙探偵団コンベンション 大人気!

折り図集
B-5判256ページ
定価2,000円(税込)送料420円(梱包込)

絵はがきセット 限定50部

布施知子ユニット作品絵はがきセット
1セット18枚組(18種類)
定価1,500円 送料160円
美しい自然と調和するユニット作品を絵はがきにしました。

ギャラリー おりがみはうす

〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080
E-mail: origami@remus.dti.ne.jp

はうすオリジナル 折り紙専用和紙

2枚の和紙を貼り合わせて作りました。折り紙が付きやすく、もみ紙の風合いが作品づくりの幅を広げます。

和紙両面 おりがみ
サイズ/30cm×30cm 5色調/20枚入 定価1,350円
送料:1セット/390円(梱包込)2セット/580円、3~4セット/700円
※和紙両面おりがみの見本をお付けしています。御希望の方は80円切手を同封の上、下記宛先まで。

越前和紙 「はな」

折り紙色紙百花用:手漉き手染めの和紙です。手漉きほもとより、味のあるぼかし染めは、田中作品に使うことで100%の実力を発揮します。
定価2,500円(税別)送料300円(梱包込)

只今制作中

折紙図鑑シリーズ

昆虫 世界で一番難しいおりがみの本(発売日・価格未定)
川畑文昭、西川誠司、北條高史、前川 淳、目黒俊幸 共著

犬 佐野康博・著 犬おりがみ第一人者の作品集(発売日未定)

西川誠司折り紙作品集 西川誠司 著 (発売日・価格未定)

西川氏の初めての本。魅力溢れる作品群を丁寧な折図でお届けします。

●商品の申し込み方法●

郵便振替が現金書留で料金(商品価格+送料)を送って下さい。ご希望の商品名と連絡先の記入をお忘れのお願い致します。(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入して下さい。)入金を確認次第、商品を送らせて頂きます。

郵便振替番号 00120-9-715400

加入者名 おりがみはうす

複数商品ご注文の場合は、送料が変わってきます。電話又はメールでお問い合わせください。

編集後記

■「関西友の会」の例会が熱い。「折紙友の会」も頑張って、いよいよ折紙探偵団。東京では折紙探偵団の例会として発足したので参加費はたまた、今回は「関西友の会」(折紙友の会)のように東京折紙探偵団(折紙友の会)の例会として、編集した本とっていただくわけではない。(Y.M.)
■読者の方から地方の活動やイベントなどの情報が寄せられ、つまみおりの内容がどんどん充実していくのが楽しい今日この頃。今後もみなさんの活動に期待大。(M.E.)
■早いもので今年最後の本「折紙探偵団」になりました。今号が最後の後は別冊、9月号が最後のもう一つ。来年は20世紀最後の年、一体どんな年になるのやら、今から少し楽しみです。良い一年になりますように。(H.T.)

■ORIGAMI TANTEI DAN / No.58 / Published on 25. November 1999 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216 Makusu Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "Kyllin" Produced by Kamiya Satoshi / Photographed by Sato Hiroshi / Publisher: Nishikawa Seiji / Editor in Chief: Yamaguchi Makoto / Editor: Tajiri Atsushi, Matsunori Eiko, Hamada Takayuki / Editorial Design: ORIGAMI HOUSE